日本デザイン学会報 | No.213 2015年10月1日

Japanese Society for the Science of Design News

発行人 山中敏正 | 編集人 山田弘和 編集補 森山貴之 | 発行所 日本デザイン学会 | 東京都杉並区西荻北3-21-15 ベルフォート西荻703 | http://jssd.jp

平成２７年度日本デザイン学会第６２回総会報告

山中会長活動方針説明／理事会活動報告

会場風景／名誉会員証贈呈式

平成27年度6月12日（金）、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館において、第62回総会が開催されました。司会進行は小野健太本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は、会場出席者約40名、委任状出席者数が197名（定数147名）により総会が成立することが報告されました。山中敏正会長から、基本方針を「より若く，より速く，より力強く」とし、より積極的に活動を展開していきたいとの説明がなされました。

議事は今泉博子会員（千葉大学）と秋山福生会員（千葉大学）の二人の議長団の司会で進行されました。まず、松岡副会長から平成26年度活動報告があり、つづいて小野本部事務局長より平成26度の決算報告がなされ、それに対し杉山和雄前監査から監査報告がなされました。その後、会場からの質疑応答を経て審議の後、承認されました。松岡由幸副会長の平成27年度事業計画の説明に続き、小野健太本部事務局長から平成27年度の予算案の説明があり、審議の後、承認されました。また、岡崎章学会誌編集・出版委員長より、平成28年度よりスタートする学会誌の完全電子化について説明があり、その後、國澤好衛法人化対策特別委員長より、次回総会をターゲットに進められている学会の法人化について説明がありました。

総会終了後、名誉会員証贈呈式が執り行われ、勝浦哲夫氏、杉山和雄氏、水野雅生氏、三橋俊雄氏、４名の先生が名誉会員証を受贈なされました。

（本部事務局長　小野健太）

左より：杉山氏、水野氏、三橋氏

平成２７年度第１回理事会議事録

日時■平成２７年４月１１日（土曜日）
15：00 ～ 18：00
場所■芝浦工業大学　芝浦校舎（田町）
８階　８０３室
出席者■山中、松岡、青木 (史)、池田（岳）、池田（美）、井上、岡崎、岡本、清水、國澤、國本、久保、小山、佐藤（公）、田村、橋田、蓮見、平松、益岡、両角、山田、小野、佐藤（弘）
委任状出席■高野、生田目、萩原、山本
欠席■渡邉、五十嵐、小林、杉山、寺内、村上、細谷、八馬

１．会長挨拶
山中会長より挨拶がなされた。

２．平成２６年度第八回理事会議事録の承認（小野本部事務局長）
平成２６年度第八回理事会の議事録案が示され，原案通り承認された。

【審議事項】

３．平成２７年度学会活動方針（山中会長）
山中会長より、平成２７年度の学会活動方針について説明がなされた。基本方針を「より若く、より早く、より力強く」とすること、また１０の基本施策について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

４．平成２７年度学会組織について（山中会長）
山中会長より、平成２７年度の学会組織案が示され、審議の後、承認がなされた。

５．平成２７年度学会運営スケジュールについて
(小野本部事務局長)
小野本部事務局長より、平成２７年度の学会運営スケジュールについて説明がなされ、承認がなされた。来年度から始まる学会出版物の完全電子化、学会の法人化に向けて、積み残し分の特集号を全て本年度中に出版する必要があるためご協力頂きたいとの依頼がなされた。

６．名誉会員推挙について（山中会長）
山中会長より、名誉会員候補者について、過去の役員経歴、現在の活動状況について説明・確認がなされ、審議の後、４名が名誉会員候補者として推挙がなされた、ご本人のご意向を確認の上、最終決定することとした。

７．平成２７年度春季研究発表大会について
（佐藤 (公) 大会実行委員長）
佐藤公信大会実行委員長より、現在の準備状況について説明がなされた。発表予定者数が 263 件であること、特別セッション「デザインの未来史：次世代への視覚化の問題集」について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。また懸案事項として、学生交流セッション、告知用ポスターの作成、プログラムの発送時期の３点について指摘がなされた。

８．法人化について（國澤法人化対策特別委員長）
國澤法人化対策特別委員長より、法人化に向けての現在の進捗状況について説明がなされ、その後、山中会長より、法人化の意義、目的について説明がなされた。また小野本部事務局長より、定款案が示され、審議の後、組織としては代議員制度を導入する方向で検討を進めることとした。
また青木理事より、公益に関するガイドラインを学会として定める必要がある点、リスク回避の視点から法人化することは十分意義があるとの指摘がなされた。また國本理事より、会員への十分な説明が必要であるとの指摘がなされた。

９．作品審査委員会スケジュールについて
（小林作品審査委員長 (代) 橋田委員）
小林作品審査委員長の代理として橋田委員より、平成２７年度の作品審査の流れ、スケジュールについて説明がなされた。「掲載可」となった論文から早めに J-STAGE にアップロードすることについて検討がなされたが、巻号システムを採用している限りは、分割することは難しいため、巻号システムを廃止したのち、対応することとした。

１０．論文集・作品集の完全電子化と特集号リニューアルに関する会員告知用配付資料について（岡崎編集・出版委員長）
岡崎編集・出版委員長より、特集号の編集状況および、特集号リニューアルに関する会員告知配布資料について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。
小野本部事務局長より、より丁寧な説明とするために、会員からの意見を集める仕組みを設けた方が良いとの意見がなされ、本部事務局で検討することとした。
山中会長から、電子化に伴い公衆送信権が含まれる論文の取扱いについても検討して欲しいとの依頼があり、編集・出版委員、論文審査委員で検討することとした。

１１．平成２７年度秋季企画大会について（松岡委員・山田理事）
山田理事より、平成２７年度秋季企画大会について、開催場所を東京藝術大学とすること、開催日を 11 月 21 日 (土) とすることについて、審議がなされ、承認がなされた。

テーマについては、「仮）デザインレガシーの時代」ということで検討を進めているとの報告がなされた。

１２．平成２８年度春季研究発表大会について（山中会長）

山中会長より、平成２８年度春季研究発表大会の開催地の選考状況について説明がなされ、候補地についてアドバイスをお持ちの方はお知らせ頂きたいとの依頼がなされた。

１３．ホームページのリニューアルについて（岡本広報委員長）

岡本広報委員長より、新ホームページのオープン時期を、当初５月を予定したが、６月１日に変更したいとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

１４．会報の発行状況について（山田理事）

山田理事より、会報をまとめるにあたり、平成２５年度議事録、および平成２６年度総会報告のデータが必要であり、早急に送るよう本部事務局に依頼がなされた。

また、会員から、会報に掲載してある入退会の情報を消去して欲しいとの依頼があり、本件については消去する方向で対応しているが、同様の件が生じた場合の対応について審議がなされ、入退会情報については会報には掲載しないとすることとした。

ただ名簿の扱い、会員かどうかの確認方法については、引き続き次回の理事会で審議することとした。

１５．会員の移動について（小野本部事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果,

入会:正会員７名（内外国人２名）、学生会員 26 名（内外国４人）

退会：正会員 16 名,

休会：正会員１名

が承認された。

【報告事項】

１６．『デザイン科学事典』編集委員会について

（松岡市販図書企画・編集委員長）

松岡市販図書企画・編集委員長より、第１回の編集委員会会議の内容について報告がなされ、また理事会構成メンバーに対し、執筆協力の依頼がなされた。

１７．２０１６年度藝術学関連学会シンポジウムについて

（小林担当（代）小野本部事務局長）

小林担当の代理として、小野本部事務局長より６月 13 日 (土) 京都国立近代美術館講堂で開催される藝術学関連学会連合第１０回公開シンポジウム　テーマ「日常のポエティック」について告知がなされた。

１８．第４支部活動報告（益岡第４支部長）

益岡第４支部長より、平成２６年度活動について報告がなされた。また他学会との交流を深めるため、７月２５，２６日に武庫川女子大学で開催される意匠学会の全国大会への協賛を代診中であるとの報告がなされた。

１９．第１支部活動報告（両角第１支部長）

両角第１支部長より、９月に東北芸術工科大学で開催される第６回第１支部大会について告知がなされた。

２０．第３支部活動報告（國本第３支部長）

國本第３支部長より、３月２１日に開催された第３支部研究発表大会について報告がなされた。

２１．第５支部活動報告（井上第５支部）

井上第５支部長より、９月に九州芸文館で開催される九州学生デザイン展、および、１０月１７日九州大学で開催される第５支部研究発表大会について告知がなされた。

２２．「デザイン学研究」投稿論文査読状況について

（久保論文審査委員長（代）小山委員）

久保論文審査委員長の代理として小山委員より，現在の論文査読状況について，以下の通り報告がなされた。

2014 年度分：投稿数 103 本，採否決定 49 本

（論文 25，報告 10，論説 5，却下 9）

2013 年度分：投稿数 90 本，採否決定 77 本

（論文 42，報告 23，論説 2，却下 10）

（記録：小野）

平成27年度第2回理事会議事録

日時■平成２７年５月２３日（土曜日）

１４：００～１７：００

場所■芝浦工業大学　芝浦校舎（田町）

３階　３０２室

出席者■山中、松岡、五十嵐、内山、岡崎、岡本、國澤、小林、小山、佐藤 (公)、古屋、小野、佐藤 (弘)、八馬

委任状出席■渡邉、生田目

欠席■久保

１．会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

２．平成２７年度第１回理事会議事録の承認（小野本部事務局長）

平成２７年度第１回理事会の議事録案が示され，原案通り承認された。

【審議事項】

３．平成２６年度決算・監査報告（小野本部事務局長）

小野本部事務局長より、配付資料に基づき、平成 26 年度の決算および監査の報告がなされ、審議の後、承認がなされた。会長より、学生会員の徴収率が悪いことに対して、システム面での対策を検討して欲しいとの依頼がなされた。

４．平成２７年度予算案について

（生田目財務委員長 (代) 小野本部事務局長）

生田目財務委員長の代理として小野本部事務局長より、配付資料に基づき、平成 27 年度の予算案が示され、承認がなされた。また監査から JABEE の年会費について継続すべきか否か判断する必要があるとの指摘があったとの報告がなされた。教育・資格委員会で、JABEE 加盟のメリットや影響などを調査し、今年度の会費は納付するが、今年度中に結論を出すこととした。

５．平成２７年度春季研究発表大会について (佐藤大会実行委員長)

佐藤大会実行委員長より大会の準備状況について報告がなされた。また学生交流セッションの内容について説明がなされ、承認がなされた。

６．総会式次第について（小野本部事務局長）

小野本部事務局長より、配付資料に基づき、平成 27 年度総会式次第について説明がなされた。

「完全電子化」と「法人化」に関する説明のための資料を事前に送付して欲しいとの依頼がなされた。また活動報告および活動計画について、渡邉副会長の代理として、ともに松岡副会長が行うこととした。

７．「デザイン学研究」の執筆要項（和文，英文）について

（久保論文審査委員長　代理小山委員）

久保論文審査委員長の代理として小山委員より、執筆要領、著作権の項目について、変更点について説明がなされた。

また「デザイン学研究」の書式をウェブサイトに掲載したいとの意見が示され、審議の後、委員会の権限として問題がないとの理由により、承認がなされた。

その他、二重投稿（自己剽窃）の件について、執筆者に対して調査を行った結果、（１）本人へ訂正を依頼してそれを掲載する（２）却下して再投稿を勧める（３）単に却下する（４）あえて取り消しはせずに審査委員会からの但し書きを掲載する、の４つの方向性が示され、審議の結果、（１）とすることで承認された。

９．作品審査について（小林作品審査委員長）

小林作品審査委員長より、審査手順の変更について説明がなされた。それに伴いスケジュールが変更される点、投稿のタイミングは随時ではなく、投稿期間を設ける点について説明がなされ、承認がなされた。

また会長から、J-stage に移行しても掲載料は徴収すべきであるが、ページ数による掲載料の区別はなしにする方向で検討して欲しいとの要望がなされた。

１０．平成２７年度学会各賞選考委員会について（松岡担当理事）

松岡学会各賞担当理事より、青木弘行氏を委員長とし、昨年度と同様の体制で進める予定であるとの説明がなされ、承認がなされた。

１１．会員の移動について（小野本部事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果,

入会：正会員 20 名（内外国人 2 名）、学生会員 72 名（内外国 12 人）
退会：正会員 4 名（内外国人 1 名）、学生会員 12 名

が承認された。

【報告事項】

１２．「広報ホームページのリニューアルについて」

（岡本広報委員長・内山広報委員）

岡本広報委員長、内山広報委員より、新たなウェブサイトについて、およびその運用方法について説明がなされた。実際は運用してみないとわからない部分があるため、6 月 1 日の運用開始後に確認しながら調整を行うとの説明がなされた。またマニュアルについては、もう少し整理した後、関係者に配布するとの説明がなされた。会長より、RSS 配信についても検討して欲しいとの依頼がなされた。

１３．総会資料確認のお願い（小野本部副事務局長）

小野本部事務局長より、配布された総会資料を確認するよう依頼がなされた。

（記録：小野）

デザイン理論・方法論研究部会活動報告

平成27年７月17日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス新34棟デザインセンターを会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会（ＤＴＭ）の2015年度活動：「デザイン塾：タイムアクシスデザインの時代」が開催されました。本活動は、ＤＴＭ、日本設計工学会 研究調査分科会、日本機械学会 デザイン科学研究会の共催により行われました。本塾は、「タイムアクシスデザインの時代」（第１部）、「タイムアクシスデザイン・価値成長デザインに関する講演」（第２部）、および「技術交流会＆ポスターセッション」（第３部）の３部構成で開催されました。

はじめに、ＤＴＭ主査の松岡より、“デザイン科学の構築”と“デザイン哲学の再生”を目的に掲げるデザイン塾の趣旨や意義とタイムアクシスデザインとの関係について説明がなされた。

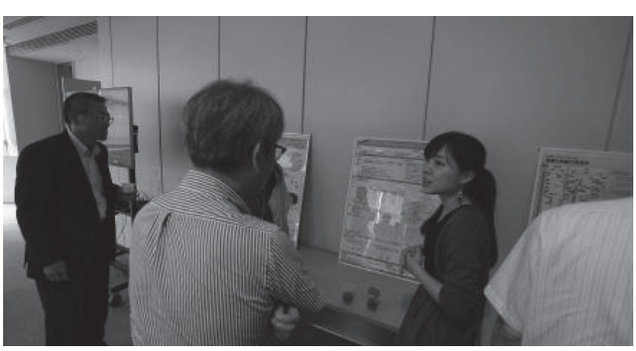
第１部においては、慶應義塾大学加藤健郎専任講師の司会で、松岡、マツダ株式会社 古郡了氏、東京大学 梅田靖教授、および首都大学東京 下村芳樹教授らによるパネルディスカッション形式の講演がなされました。松岡からは、「タイムアクシスデザインの時代」というタイトルで、理論や方法論、思想としてのタイムアクシスデザインの概説がなされた。また、古郡氏からは、使えば使うほど価値が成長するモビリティシステム」というタイトルで、タイムアクシスデザインの概念に基づく価値成長モビリティシステム研究の概要が説明されました。さらに、梅田教授より、「ライムサイクル工学におけるタイムアクシスデザインの必要性」というタイトルで、ライフサイクルデザインや工学という視点から見たタイムアクシスデザインの必要性や重要性について、自身の研究における方法論や方法を交えながら概説されました。さいごに、下村教授より、「製品サービスシステム（PSS）開発とタイムアクシスデザイン」というタイトルで、PSS設計におけるマルチタイムスケールの概念の重要性とその応用方法について説明がなされた。講演後の聴講者を含むディスカッションでは、“デザインと時間軸”や“価値の成長メカニズム”を中心テーマとして、本質に迫る討論がなされました。

第２部においては、２件の講演がなされました。慶應義塾大学大学院 畑政貴氏からは「材料を視点とした価値成長型人工物のタイプとデザイン指針」というタイトルで、価値が成長する人工物のタイプと材料の関係分析結果に基づくデザイン指針の説明がなされました。また、Graduate Scool of Keio University Mikako Arita氏からは“Timeaxis Design of Health Monitoring Seat System”というタイトルで講演がなされました。講演のなかでは、タイムアクシスに基づく段階的な機能向上を実現するシートシステムデザインのプロセスやロードマップについて説明がなされました。

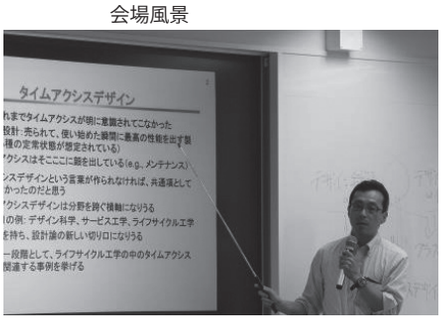
第３部においては、タイムアクシスデザインやデザイン科学に基づく研究事例や作品（全６件）のポスター発表と並行して技術交流会も開催され、盛況のうちに終了いたしました。

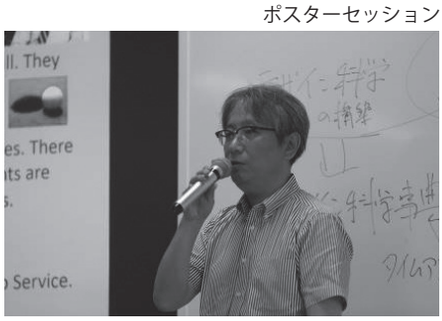
本活動においては、デザインに関わる研究・教育者の方々（産業技術総合研究所、千葉工業大学、東京大学、北海道大学、武蔵野美術大学）、実務者の方々（NEC、SKGコンサルティング、アーカイブ、キヤノン、小森康弘技術士事務所、南条装備工業、日産自動車、日本発条、プロセス設計塾、マツダ、丸善プラネット）、学生を含む約60名の方にお越しいただき、タイムアクシスデザインの意義や可能性について活発な議論が行われました。　（主査　松岡由幸）

会場風景



ポスターセッション





左より：古郡氏、梅田氏、下村氏

平成27年度日本デザイン学会会告２

2011年の東日本大震災から既に４年６ヶ月が経ちました。被災地では、時の変化が形になろうとしています。そこでは、復興や震災遺構の在り方などが問われています。

一方、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまで５年になります。開催に向けては、1964年の施設再構と新たな準備が始まっています。そこには共通するデザインの課題があるように思われます。時の経過の中から、私たちは何を継承し、何を変えていくのかという問いかけではないでしょうか。それは、デザインが新たな次元に入ったことの実感にもつながります。

本大会では、震災とこれからのオリンピックをあえて関係付けて考えることから、残すべきものと変えていくものとしての有益な遺産（レガシー）を考えるために、テーマを「デザイン・レガシーの時代 〜残すべきもの―変えていくもの〜」として、デザインを見つめ直す機会とします。

● 大会名：平成27年度日本デザイン学会秋季企画大会
● 日　時：2015年11月21日（土）
　9：00（受付）〜　17：00　（交流会17：15〜18：45）
● 開催地：東京藝術大学上野キャンパス　美術学部中央棟
　詳細は http//www.geid ai.ac.jp/access/ueno
　（車での来校はできません）
● 会　場：美術学部中央棟・第一講義室を中心に行います。
● テーマ：「デザイン・レガシーの時代〜残すべきものー変えていくもの〜」Design for Sustainability and Legacy
● 大会委員長：宮田亮平（東京藝術大学 学長）
　実行委員長：清水泰博（東京藝術大学 教授）
　実行副委員長：山田弘和（横浜美術大学教授 / 環境デザイン部会主査）
　企画協力：環境デザイン部会
● 主催：日本デザイン学会　協力：東京藝術大学

● 大会プログラム：

9:00-　受付（美術学部中央棟ホール）
9:20-9:45　開会挨拶及び各賞表彰及び授賞式　（第１講義室）
　山中敏正（日本デザイン学会 会長・筑波大学 教授）
9:45-10:00　大会委員長挨拶　（第１講義室）
　宮田亮平（東京藝術大学 学長）
10:00-11:00　基調講演１　（第１講義室）
　尾登誠一（東京藝術大学 教授）
　テーマ：「生命観のトレース」
　〜宇宙居住のデザイン的展開
11:00-12:00　基調講演２　（第１講義室）
　福井昌平（㈱コミュニケーション・デザイニング研究所代表取締役社長）
　テーマ：デザインの「持続可能性とレガシー」
　〜国際博覧会とオリンピックの新たな潮流から〜
昼　食：学内・大浦食堂、その他周辺の飲食店
12:30-14:00　学生プロポジション　（第２講義室）
　全国のデザイン学生研究作品をパネル展示発表
14:10-16:50　パネルディスカッション　（第１講義室）
　テーマ「デザイン・レガシー〜残すべきもの変えていくもの〜を問う」
　パネリスト：青木史郎（公益財団法人日本デザイン振興会 常務理事）
　：白井宏昌（滋賀県立大学 准教授）
　：須永剛司（東京藝術大学 教授）
　モデレーター：山田弘和（横浜美術大学 教授）
16:50-17:00　閉会挨拶（第１講義室）
　清水泰博（東京藝術大学 教授）
17:15-18:45　交流会　（中央棟ホール）（会費 ¥500）

● 企画展示：「残すべきもの - 変えていくもの」（中央棟ホール）
　（資料提供：環境デザイン部会）
● その他学内展示：
　・「武器をアートにーモザンビークにおける平和構築」
　（東京藝術大学大学美術館本館展示室3）
　・「藝大コレクション展　美の収穫祭　特集展示　平櫛田中ゆかりの作品を中心に」（東京藝術大学大学美術館本館展示室1）
　・さかざきちはる展「ペンギンのいるところ」（東京藝術大学美術学部総合工房棟3F・デザイン科プレゼンテーションルーム

平成27（2015）年度日本デザイン学会秋季企画大会学生プロポジション募集

日本デザイン学会では、デザインを学ぶ方々へのデザイン学研究の普及を目的に、秋季企画大会「学生プロポジション」展覧会を実施しています。 本年の秋季企画大会は、幹事校の東京藝術大学上野校地で11月21日（土）に実施します。「学生プロポジション」では、大学、大学院あるいは専門学校でデザイン学ぶみなさまが、日頃の研鑽の成果を展示し交流することから幅広いデザインの知と技を共有します。合わせて、出展者の学生諸君には大会プログラムを聴講いただき、学会活動への関心を高めていただきます。

尚、当プロポジションは、学生本人か指導の先生方から応募いただけますようお願いします。本会が、数多くの学校からの参加によっ

て、デザインの明日を担う学生たちの交流の場となることを楽しみにしています。

●企画名称：平成 27（2015）年度 日本デザイン学会秋季企画大会
「学生プロポジション」
●開催場所：東京藝術大学上野校地　中央棟（上野駅または根津駅）
●開催日程：平成 27 年 11 月 21 日（土）
●概要：学生プロポジションの目的は、大学や専門学校でデザイン学ぶみなさまが、日頃の研鑽の成果を展示し交換することをとおして、幅広いデザインの学びとそこに育まれている知と技を共有することです。日本デザイン学会秋季企画大会の関連行事として実施します。展示は、所定の時間内での発表とフリーディスカッションの方式で行います。展示の設営および撤収は当日の展示時間前後に出展者が行います。
●実施ならびに応募方法：学会 HP を参照してください。
●問い合わせ先：
日本デザイン学会　秋季企画大会実行委員会＋研究推進委員会
学生プロポジション事務局（担当：平松）
jssd-ed_hira@mbr.nifty.com
運営の都合上 問い合わせはメールのみ受付けとなります。

募集案内

◆平成２７年度「幼児向け絵本」募集要項

応募内容：アイヌの伝統や文化に関する幼児向け絵本の原作（絵と文）を広く募集します。最優秀作品を「幼児向け絵本」として制作し、道内幼稚園・保育所等に無償配布します。絵本のテーマ及び内容は、アイヌの伝統や文化に関するものとし、創作でも構いませんが幼児向けの絵本としてふさわしいものとします。なお、作品のもとにした物語・歌などがある場合、その出典、語り手等を明記し、必要に応じて作者・口演者・翻訳者またはその権利の継承者名による承諾書を添付してください。
（＊応募規定など詳細はホームページでご確認ください。）
応募締切：平成 27 年 9 月 30 日（水）必着
表彰：最優秀賞　1 点・・・賞状・賞金 50 万円
入選　　2 点・・・賞状・賞金 5 万円
奨励賞　　7 点・・・図書券 5 千円
＊最優秀賞の賞金より源泉徴収税として賞金の 10.21％が控除されます（平成 27 年 5 月現在）。
主催：公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
後援：国土交通省、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会
問合せ・応募先：
〒 060-0001　札幌市中央区北 1 条西 7 丁目プレスト 1・7（5F）
TEL.011-271-4171　FAX.011-271-4181
ホームページ：http://www.frpac.or.jp
E-mail：ainu@frpac.or.jp

◆佐川急便特別協賛事業　第８回京都・花灯路創作行灯デザインコンペ

デザインの基本コンセプト：
「京都・花灯路」の主旨に合ったもので「和の灯り」を基本コンセプトにデザインしてください。
応募資格：個人・企業・団体・グループ、年齢、性別、職業、国籍は問いません。
登録料：無料
応募方法：「募集規定」に定めるところによりご応募ください。
http://www.hanatouro.jp/
(1) 応募締切　2015 年 10 月 16 日（金）当日消印有効
(2) 提 出 先　〒 604-8187 京都市中京区烏丸御池東入 第一生命ビル 7 階　（株）日商社内　「京都・花灯路 創作行灯デザインコンペ」事務局 宛
表彰：最優秀賞　1 点　（賞金 20 万円）
特別賞（佐川急便賞）　1 点　（賞金 10 万円）
学生賞　1 点　（賞金 5 万円）
入選　数点（賞金 2 万円）
来場者賞　1 点　（賞金 2 万円）
主催：京都・花灯路推進協議会
[構成団体：京都府、京都市、京都商工会議所、京都仏教会、京都市観光協会、京都文化交流コンベンションビューロー]
特別協賛：佐川急便株式会社
問い合わせ先：「京都・花灯路 創作行灯デザインコンペ」事務局
〒 604-8187 京都市中京区烏丸御池東入
第一生命ビル 7 階（株）日商社内
Tel：075-211-3571 Fax：075-241-4544
担当：川口・小川
ホームページ：http://www.hanatouro.jp/andon/

催し物

◆ニキ・ド・サンファル展
会期：12 月 14 日（月）まで
会場：国立新美術館　企画展示室 1 E　東京六本木
〒 106-8558　東京都港区六本木 7-22-2
開館時間：10：00 ～ 18：00（入場は閉館の 30 分前まで）
休館日：火曜日（ただし、11 月 3 日は開館）
観覧料：（当日）一般 1,600 円、大学生 1,200 円、高校生 800 円、
前売／団体）一般 1,400 円、大学性 1,000 円、高校生 600 円、
（中学生以下無料）
主催：国立新美術館、フランス国立美術館連合グランパレ（RMN-GP）、
ニキ芸術財団、NHK、NHK プロモーション
協賛：日本写真印刷
特別協力：Yoko 増田静江コレクション
お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
展覧会ホームページ：http://www.niki2015.jp/

◆特別展　レオナルド・ダ・ヴィンチ ― 天才の挑戦
会期：2016 年 1 月 16 日（土）～　4 月 10 日（日）
会場：江戸東京博物館 1 階特別展示室
〒 130-0015 東京都墨田区横綱 1-4-1
開館時間：9：30 ～ 17：30 ／土曜日は 19：30 まで（入館は閉館の
30 分前まで）
休館日：月曜日（ただし 1 月 18 日、3 月 21 日・28 日は開館、3 月
22 日（火）は休館）
主催：公益財団法人東京歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、毎日
新聞社、NHK、NHK プロモーション
後援：外務省、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、
スポーツニッポン新聞社
特別協力：レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館
美術館ホームページ：http://www.davinci2016.jp

◆日伊国交樹立 150 周年記念　カラヴァッジョ展
会期：2016 年 3 月 1 日（火）～　6 月 12 日（日）
会場：国立西洋美術館　東京上野公園
〒 110-0007　東京都台東区上野公園 7-7
開館時間：9:30 ~ 17:30（入館は閉館の 30 分前まで）
休館日：月曜日
主催：国立西洋美術館、NHK、NHK プロモーション、読売新聞社
お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
展覧会ホームページ：http://www.nmwa.go.jp

献本御礼

◆寄贈図書
茶室と室内デザイン、小泉和子、2015、思文閣出版

◆機関誌
TAMABI News68、2015、多摩美術大学

◆報告書
INDUSTRIAL DESIGN・2014 年度 JIDA 事業報告書、2015、日本インダストリアルデザイナー協会
生活工房アニュアルレポート 2014、2015、せたがや文化財団 生活工房

◆紀要
多摩美術研究 4 、2015、多摩美術大学
デザイン理論 66、2015、意匠学会
東北芸術工科大学紀要 No.22、2015、東北芸術工科大学

平成２７年度
日本デザイン学会
第62回総会

■日時：平成 27 年 6 月 12 日 (金)
　　１３：００〜１４：００

■会場：

千葉大学　けやき会館

総会資料

＊本冊子は総会資料を綴じ合わせたものです。限られた時間ですので十分な説明もできかねると思いますが、その節は本冊子によくお目をお通しくださいまいすようお願い申し上げます。

■次第　　■司会：小野健太 本部事務局長

1. 総会成立の確認ならびに開会宣言 .....小野健太 本部事務局長
2. 会長挨拶・活動方針説明.....山中敏正 会長
3. 議長団選出.....小野健太 本部事務局長
4. 議事 .....議長団
   - 4.1. 平成２６年度活動報告 ..... 松岡由幸 副会長
     - (1) 論文審査委員会.....久保光徳 委員長
     - (2) 作品審査委員会.....小林昭世 委員長
     - (3) 学会誌編集・出版委員会.....岡崎章 委員長
     - (4) 研究推進委員会.....渡邉誠 委員長
     - (5) 企画委員会 総合企画 .....松岡由幸 委員長
     - (6) 企画委員会 支部企画 .....五十嵐浩也 委員長
     - (7) 教育・資格委員会.....古屋繁 委員長
     - (8) 広報委員会.....岡本誠 委員長
     - (9) 財務委員会.....生田目美紀 委員長
     - (10) 市販図書企画・編集委員会.....蓮見孝 委員長
     - (11) 法人化対策特別委員会.....國澤好衛 委員長
     - (12) 平成 26 年度春季研究発表大会 .....池田岳史 実行委員長
     - (13) 平成 26 年度秋季企画大会 .....玉田俊郎 実行委員長
     - (14) 学会各賞選考委員会担当.....松岡由幸 担当理事
     - (15) Ｄｅｓｉｇｎシンポジウム担当.....松岡由幸 担当理事
     - (16) ＩＡＳＤＲ担当.....山中敏正 担当理事,
渡邉誠 担当理事
     - (17) 日本学術会議担当.....小林昭世 担当理事
     - (18) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当.....松岡由幸 担当理事
     - (19) 日本工学会担当.....國澤好衛 担当理事
     - (20) 第１支部.....両角清隆 支部長
     - (21) 第２支部.....五十嵐浩也 支部長
     - (22) 第３支部.....國本桂史 支部長
     - (23) 第４支部.....益岡了 支部長
     - (24) 第５支部.....井上貢一 支部長
     - (25) 本部事務局.....小野健太 本部事務局長
     - (26) 教育部会.....金子武志 主査
     - (27) 家具・木工部会.....阿部眞理 主査
     - (28) プロダクトデザイン研究部会.....山﨑和彦 主査
     - (29) 環境デザイン部会.....山田弘和 主査
     - (30) デザイン史研究部会.....立部紀夫 主査
     - (31) デザイン理論・方法論部会.....松岡由幸 主査
     - (32) ファッションデザイン部会.....常見美紀子 主査
     - (33) 情報デザイン部会.....永井由美子 主査
     - (34) 創造性研究部会.....永井由佳里 主査
     - (35) タイポグラフィ研究部会.....石川重遠 主査
     - (36) サービスイノベーションデザイン研究部会.....古屋繁 主査
     - (37) 子どものためのデザイン部会.....岡崎章 主査
   - 4.2. 平成２６年度決算報告 ..... 小野健太 本部事務局長
   - 4.3. 平成２６年度会計監査報告 ..... 杉山和雄 監査,
清水泰博 監査
   - 4.4. 平成２６年度決算審議 ..... 議長団
   - 4.5. 平成２７年度活動計画 ..... 松岡由幸 副会長
     - (1) 論文審査委員会.....久保光徳 委員長
     - (2) 作品審査委員会.....小林昭世 委員長
     - (3) 学会誌編集・出版委員会.....岡崎章 委員長
     - (4) 研究推進委員会.....渡邉誠 委員長
     - (5) 企画委員会 総合企画 .....松岡由幸 委員長
     - (6) 企画委員会 支部企画 .....五十嵐浩也 委員長
     - (7) 教育・資格委員会.....古屋繁 委員長
     - (8) 広報委員会.....岡本誠 委員長
     - (9) 財務委員会.....生田目美紀 委員長
     - (10) 市販図書企画・編集委員会.....蓮見孝 委員長
     - (11) 法人化対策特別委員会.....國澤好衛 委員長
     - (12) ＩＡＳＤＲ担当.....山中敏正 担当理事,
渡邉誠 担当理事
     - (13) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当.....松岡由幸 担当理事
     - (14) 日本工学会担当.....國澤好衛 担当理事
     - (15) Ｄｅｓｉｇｎシンポジウム担当.....松岡由幸 担当理事
     - (16) 第１支部.....両角清隆 支部長
     - (17) 第２支部.....五十嵐浩也 支部長
     - (18) 第３支部.....國本桂史 支部長
     - (19) 第４支部.....益岡了 支部長
     - (20) 第５支部.....井上貢一 支部長
     - (21) 本部事務局.....小野健太 本部事務局長
     - (22) 教育部会.....金子 武志 主査
     - (23) 家具・木工部会.....阿部眞理 主査
     - (24) プロダクトデザイン研究部会.....山﨑和彦 主査
     - (25) 環境デザイン部会.....山田弘和 主査
     - (26) デザイン理論・方法論部会.....松岡由幸 主査
     - (27) 情報デザイン部会.....永井由美子 主査
     - (28) 創造性研究部会.....永井由佳里 主査
     - (29) タイポグラフィ研究部会.....石川重遠 主査
     - (30) サービスイノベーションデザイン研究部会.....古屋繁 主査
     - (31) 子どものためのデザイン部会.....岡崎 章 主査
   - 4.6. 平成２７年度予算案説明 ..... 生田目美紀 財務委員長
   - 4.7. 平成２７年度予算案審議 ..... 議長団
5. 議長団退席.....小野健太 本部事務局長
6. 学会誌の完全電子化について.....岡崎章 学会誌編集・出版委員長
7. 学会の法人化について.....國澤好衛 法人化対策特別委員長
8. 閉会挨拶.....小野健太 本部事務局長

平成２７年度日本デザイン学会活動方針

会長　山中敏正

基本方針

より若く，より速く，より力強く

−デザイン学研究による社会創造に向けて −

東日本大震災から４年が経過したにもかかわらず，被災地の復興はやっと緒に就いたところであり，福島第一原子力発電所はまだ廃炉作業の具体的な行程に取りかかることすらできていません．一方で2020年の東京オリンピックまであと５年となり，デザインは否応なしに「その先の世界」をどう形作るかという課題を多様な観点から議論し形にすることが求められています．

デザイン学会も設立60年が過ぎ，学会活動の成果としての論文の審査公開はCiNii を活用した創刊号からの電子化，J-Stage を活用したオンラインジャーナル化，そしてオンライン査読が軌道にのり，会員諸氏の研究成果をスピーディに公開できるようになりました．また，これからの学会を支える根となる会員活動では学生セッションの継続的実施と学生会員制度の創設により学部学生にも学会参加の可能性を開きました．学会活動の幹である，社会的基盤の形成では日本学術会議・日本感性工学会との共同主催でIASDRを運営するなど，デザイン学の中心学会として国際活動もふくめてその基盤を固めてきました．

今後は，会員諸氏の研究をより実りのあるものにするべく，さらに力強くデザイン学研究を社会に関連付けていくことを実践する必要があるでしょう．そのために，法人制度を利用した社会的活動団体としての学会の位置付けの確立と，より速くより魅力的な学会サービスの提供を念頭に，新たな学会組織のあり方を議論し，実現して行くために組織の再構築も視野に入れた取り組みを，理事会一丸となって展開したいと考えています．

会員諸氏，関係の皆様方のより一層のご支援やご協力をお願い申し上げる次第でございます．

基本施策

1. **学会活動の基盤としての，論文・作品・記事のありかたに関する検討**
   - ・オンラインジャーナルによる迅速な研究成果公開と学会誌の体系的再構築
   - ・論文・作品の適切な審査と，審査基準・対象の確認
   - ・学会誌論文の国際化の推進と
2. **法人化に向けた検討**
   - ・法人組織の集中的検討と，定款，選挙等の具体案構築
3. **国際化，国内外他学協会，産官との事業連携強化**
   - ・IASDR2015の実施とIASDRでの企画・運営
   - ・デザイナーの資格制度と継続教育（CPD）等，デザイン学の立場による社会制度との連携強化
   - ・産業界との連携強化
4. **学術環境の整備**
   - ・科学研究費・分科「デザイン学」のさらなる拡充
5. **春季研究発表大会，秋季企画大会の活性化**
   - ・オーガナイズドセッションを活用した産学官協力研究体制の充実
   - ・春季発表件数の増加策，秋季企画内容の充実策検討
6. **広報活動の強化**
   - ・学会ホームページの全面的改訂
   - ・学会の魅力を伝える広報資料の作成
   - ・協賛・広報活動を通じた，関連学会との連携強化
7. **支部活動活性化策のさらなる推進**
   - ・支部間，学会との活動情報・成果の共有と連携方法の見直しと強化
   - ・活動単位（支部地区割）と法人組織の基盤の整理
8. **研究部会のあり方に対する検討**
   - ・研究部会活動の不断の検証と，学会との連携確認
   - ・研究部会編纂図書の刊行，講習会・セミナー等の開催
   - ・専門的，横断的課題による競争的外部資金獲得策検討
9. **会員制度の拡大と財務の改善**
   - ・学生会員制度・学生プロポジション・学生セッション等を活用した学会活動の活性化
   - ・オンラインジャーナル移行等による財務基盤の整備
10. **会則，諸規定の見直し**

平成２７年度　会長，副会長，監査，理事一覧

会長	山中 敏正	筑波大学　芸術系
副会長	松岡 由幸	慶應義塾大学　大学院　総合デザイン工学専攻
	渡辺 誠	千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
監査	杉山 和雄	杉山デザイン研究所
	清水 泰博	東京芸術大学 美術学部 デザイン科
理事	青木 史郎	公益財団法人日本デザイン振興会
	五十嵐 浩也	筑波大学 芸術系
	池田 岳史	福井工業大学 工学部 デザイン学科
	池田 美奈子	九州大学 芸術工学研究院
	井上 貢一	九州産業大学 芸術学部
	岡崎 章	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	岡田 明	大阪市立大学 大学院 生活科学研究科・生活科学部
	岡本 誠	はこだて未来大学 システム情報科学部
	小野 健太	千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	國澤 好衛	産業技術大学院大学 産業技術研究科
	國本 桂史	名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科
	久保 光徳	千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	小林 昭世	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
	小山 慎一	千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	髙野 修治	湘南工科大学 工学部 コンピュータデザイン学科
	田村 良一	九州大学 芸術工学研究院
	寺内 文雄	千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	生田目 美紀	筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科
	萩原 将文	慶應義塾大学 理工学部 情報工学科
	橋田 規子	芝浦工業大学 デザイン工学部
	蓮見 孝	札幌市立大学
	平松 早苗	株式会社ars設景研究所
	古屋 繁	芝浦工業大学 デザイン工学部
	細谷 多聞	札幌市立大学 デザイン学部
	益岡 了	岡山県立大学 デザイン学部
	村上 存	東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻
	両角 清隆	東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科
	山田 弘和	横浜美術大学 美術学部
	山本 早里	筑波大学 芸術系
特設理事	工藤 芳彰	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	佐藤 弘喜	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
	八馬 智	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科

平成２７年度　日本デザイン学会組織

平成２７年度　日本デザイン学会　委員会等一覧

〇運営理事，＊特設理事，＋幹事長

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	〇 小野 健太	佐藤 弘喜＊ 八馬 智＊	＋ 佐久間 彩紀

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	〇 久保 光徳	小山 慎一 寺内 文雄	蘆澤 雄亮 植田 憲 加藤 健郎 鄭孟淙
作品審査委員会	〇 小林 昭世	高野 修治 生田目 美紀 橋田 規子	＋ 白石 学 加藤 健郎 永盛 祐介 橋本 和幸 永嶋さゆり
学会誌編集・出版委員会	〇 岡崎 章	工藤 芳彰＊ 寺内 文雄 山田 弘和	＋ 大島 直樹 森山 貴之
研究推進委員会	〇 渡邉 誠	萩原 将文 平松 早苗 細谷 多門	＋ 佐々 牧雄 永盛 祐介
企画委員会（総合企画）	〇 松岡 由幸	青木 史郎 村上 存 渡邉 誠	＋ 佐藤 浩一郎
企画委員会（支部企画）	〇 五十嵐 浩也	両角 清隆 國本 桂史 益岡 了 井上 貢一	
教育・資格委員会	〇 古屋 繁	蓮見 孝	
広報委員会	〇 岡本 誠	山本 早里	＋ 大島 直樹 内山 俊朗
財務委員会	〇 生田目 美紀	小野 健太	
市販図書企画・編集委員会	蓮見 孝	松岡 由幸	＋ 加藤 健郎 佐藤 浩一郎 吉岡 聖美
春季研究発表大会概要集編集委員会	田村 良一	佐藤 弘喜＊ 細谷 多門	＋ 柿山 浩一郎 小宮 加容子

特別委員会	委員長	委員	幹事
法人化対策特別委員会	〇 國澤 好衛	小野 健太	＋ 中島 瑞季

委員会等担当	担当
学会各賞選考委員会担当	松岡 由幸
春季研究発表大会担当	佐藤 公信
秋季企画大会担当	山田 弘和
IASDR担当	山中 敏正 渡邉 誠
日本学術会議（第一部）　藝術学関連学会連合担当	小林 昭世
日本学術会議(第三部)担当	寺内 文雄
横断型基幹科学技術研究団体連合担当	松岡 由幸
日本工学会担当	國澤 好衛
DESIGNシンポジウム担当	松岡 由幸

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部（北海道・東北地域）	両角 清隆	岡本 誠	＋ 柚木 泰彦 伊藤 真市 酒井 聡 福田 大年 堀江 政広
第2支部（関東地域）	五十嵐 浩也	國澤 好衛	
第3支部（北陸・中部地域）	國本 桂史	黄 崇彬	＋ 滝本 成人 池田 岳史 廣瀬 伸行 西尾 浩一 加藤 大香士
第4支部（近畿・中国・四国地域）	益岡 了	岡田 明	＋ 谷本 尚子 尾崎 洋 多田羅 景太
第5支部（九州・沖縄地域）	井上 貢一	池田 美奈子	＋ 星野 浩司 岩田 敦之 大久保 亨 尾方 義人 西口 顕一 本間 康夫 松本 誠一

選挙管理委員会　＊平成27年7月31日まで	委員長	委員
	工藤 芳彰	植田 憲 内山 俊朗 永見 豊 八馬 智

監査	
	杉山 和雄 清水 泰博

平成２６年度活動報告

論文審査委員会

委員長　久保 光徳

昨年度の採択論文は，論文 27 件，論説 5 件，報告 11 件となり，うち，和文誌へは 29 件，英文誌へは 14 件となりました。ご投稿いただいた 103 件のうち，９件は残念ながら却下とさせていただきましたが，査読者各位からのコメント，投稿者各位からの回答書を介しての学術的な意見交換が，さらなる研究発展につながるように心から願っております。昨年度は，論文投稿審査システムが電子化され２年目となり，論文投稿から審査，連絡，版下原稿投稿まで電子化されました。しかしながら，まだまだ多くの問題が未解決のままでありますので，環境整備を進め，より多くの会員各位からデザイン学研究論文集にご寄稿いただけますように努力したいと考えております。昨年度も多くの方々に論文審査のご協力をお願い致しました。いつも無理なお願いにもかかわらず，とても貴重なご意見，ご指摘をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。下に昨年度投稿論文審査にご協力いただいた方々のお名前を列挙させていただきます。最後に，ご寄稿いただいた会員の皆様，ご審査にご協力いただいた皆様に重ねて御礼申し上げます。

記

（敬称略，順不同）

Ahmad Aziz Hafiz, Chang Wei-Chi, Chen Tien-li, Chiao Lin-Hao, Fan Chen-Hao, Fan Kuang-Yi, Fang Yu-Min, Georgiev Georgi V, Hung Po-Sung, Hwang Shyh-Huei, Lee Yishin, Li PeiYing, Paskevicius Algirdas, Peng Jui-Wen, Tsai Tung Jen, Tsai Wang-Chin, Wang Hung-Hsiang, Zhang Jue, Zheng MengCong, 赤澤 智津子 , 秋山 学 , 秋田 直繁 , 浅沼 尚 , 蘆澤 雄亮 , 阿部 眞理 , 新井 竜治 , 石井 雅博 , 今泉 博子 , 伊原 久裕 , 伊藤 孝紀 , 伊藤 裕之 , 伊豆 裕一 , 岩城 達也 , 植田 憲 , 大鋸 智 , 大島 直樹 , 岡崎 章 , 岡田 栄造 , 岡田 明 , 尾方 義人 , 小川 直茂 , 面矢 慎介 , 片山 めぐみ , 加藤 健郎 , 菊池 利彦 , 北神 慎司 , 木村 敦 , 清須美 匡洋 , 桐谷 佳惠 , 櫛 勝彦 , 工藤 芳彰 , 久保 光徳 , 久保田 善明 , 小山 慎一 , 近藤 祐一郎 , 境野 広志 , 坂田 勝亮 , 坂本 和子 , 佐々木 尚孝 , 佐々木 良子 , 佐藤 公信 , 佐藤 浩一郎 , 下村 義弘 , 白石 光昭 , 須長 正治 , 杉野 幹人 , 杉本 美貴 , 鈴木 直人 , 曽我部 春香 , 田中 吉史 , 田中 法博 , 田中 隆充 , 玉田 真紀 , 陳 明石 , 寺内 文雄 , 中西 美和 , 中本 和宏 , 永盛 祐介 , 野口 尚孝 , 野田 勝二 , 萩原 将文 , 原田 利宣 , 平尾 和洋 , 平田 一郎 , 前川 正実 , 増成 和敏 , 松岡 由幸 , 三橋 俊雄 , 宮崎 清 , 宮崎 大輔 , 森 亮太 , 柳澤 秀吉 , 山岡 俊樹 , 山田 隆人 , 山本 早里 , 吉岡 聖美 , 吉田 美穂子 , 羅 彩雲 , 李 俐慧 , 劉 夢非

作品審査委員会

委員長　小林 昭世

2014 年度は、４０を越える作品論文の御応募を頂きました。審査の結果 29 の作品論文を作品集２０号に所収し、刊行することができました。作品論文の審査にあたっては、前委員会のもとで作成された、以下の規定に則り審査をしました。

「作品論文とは、自らが参加したデザインの成果物およびそのデザインプロセスに関する省察を論述したものである。すなわち、成果の具体的な内容と目的、その造形性、先見性、独創性、社会性などへの言及とともに、デザインプロセスの構成とそれを展開した行為と思考の特性について論述され、それらがデザイン学として価値ある知見を含んでいるもの。また、萌芽的なデザインであっても、成果物が先進性や独創性に富み、デザインプロセスに関する新しい探求や価値ある考察があり、その発展性が大いに期待できると認められるもの。」

作品集２０号のために審査を引き受けて頂いた皆様に御礼申し上げます。

専門審査員：伊豆裕一　井上征矢　内山俊朗　小川俊二　笠井則幸　加藤健郎　加藤三喜　黄ロビン　小林昭世　小山登　佐々木美貴　佐藤浩一郎　清水泰博　白石学　杉下哲　鈴木拓弥　須永剛司　高野修治　滝本成人　土田義郎　中島瑞季　永盛祐介　西岡仁也　西川潔　生田目美紀 長谷高史　橋田規子 橋本和幸 平松早苗　古堅真彦　水津功　山内貴博　山田和弘　山本早里　吉田惠介　梁元碩

2014 年度作品審査委員会では、審査の他に、作品集の電子化対応、作品集刊行日時の前倒し、作品論文の複数回刊行、日本デザイン学会 web ページにおける作品論文広報などについて検討いたしました。

2014 年度作品審査委員会　小林昭世　高野修治　生田目美紀　橋田規子　白石学　加藤健郎　永盛祐介　橋本和幸

学会誌編集・出版委員会

委員長　岡崎 章

H26 年度は，H28 年度を目途とした「論文集と作品集の完全電子化および唯一の印刷体としての特集号のリニューアル」を目標に，関係委員会の協力のもと著作権の取り扱いを含む懸案事項である「作品集の電子化」に関する一連の作業が完了できました.

その結果，H27 年度初頭に H26 年度の作品集の電子版が J-stage にて公開されます.

特集号（年 4 冊）については，前年度分２冊「実践するデザイナーたちのデザイン知」(21 巻３号, 通巻 83, 担当：須永剛司)，「フィールドワーク再考」（21 巻 4 号，通巻 84，担当：工藤芳彰）と本年度分２冊「システムデザイン方法」（22 巻 1 号，通巻 85，担当：山岡俊樹)，「視覚文化におけるデザイン資源」（22 巻２号，通巻 86，担当：井口壽乃）を発行しました．残る２冊「エンターテインメントデザイン」（22 巻３号，通巻 87，担当:江口倫郎)，「３D プリントイノベーション」（22 巻 4

号，通巻 88，担当：谷口俊平）については，H27 年度早々に発行予定です．

なお，昨年度の報告において「これからのプロダクトデザイン」（21 巻 4 号，通巻 84，担当：山崎和彦）を発行と表記していましたが，諸事情により取り止めとなり，本年度分として計画していた「フィールドワーク再考」（21 巻 4 号，通巻 84，担当：工藤芳彰）を繰り上げるかたちとなりました．

会報につきましては，209 号を発行しました．210，211 号は，上記した H27 年度早々に発行予定の特集号とあわせてお届けします．

編集委員は，工藤芳彰，寺内文雄，山田弘和，大島直樹（幹事），森山貴之（幹事）でした．

研究推進委員会

委員長　渡邉 誠

研究推進委員会では、会員のみなさまそして委員と幹事の協力を得、次の活動を行いました。

①春季研究発表大会の「学生交流ワークショップ」:「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろう？」をテーマにワークショプの企画立案と実施運営を行いました。約 30 人が参加者し、メンターを交えたグループでの活発な議論と全体発表をとおして学校をまたぐ学びの機会をつくることができました。

学生交流ワークショップ会場風景

②秋季企画大会の「学生プロポジション」：10 月 25 日（土）東京造形大学にて開催された秋季企画大会で「学生プロポジション」の企画・運営を行いました。全国のデザインスクールから多くの作品が出展され 7 つの優秀作品が表彰されました。「学生交流ワークショップ」と合わせて、学生の皆様の参加に感謝します。

優秀作品賞受賞者

③研究部会の活性化：平成 25 年度より各研究部会活動報告を大会総会資料としてまとめ報告を行いました。

④平成 27 度春季研究発表大会に向けてテーマセッション募集を行い、テーマの選定を行いました。

企画委員会　総合企画

委員長　松岡 由幸

平成 26 年度の企画委員会総合企画は，デザイン学における基盤研究の推進を図るべく，以下を行いました．

まず，7 月 4 日から 6 日にかけて行われた本春季大会では，福井工業大学の皆様のご尽力により，大会テーマ「しあわせのデザイン」のもと，「50 年後のしあわせな暮らし」，「インターフェースデザインの評価」，「演習課題から探る”しあわせ”のデザイン」，および「次世代デザインの枠組みをさぐる：行為の中で見出すデザインの実践」という 4 つのテーマのオーガナイズドセッションが行われました．

さらに，10 月 25 日（土）には，東京造形大学にて，テーマ「グローバル連携とデザイン教育」のもと，秋季企画大会が行われました．Ulrich Schendzielorz 先生（シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授）および益田文和先生（東京造形大学教授）による基調講演，玉田俊郎先生をモデレータとしたパネルディスカッションなど，闊達な議論が行われました．さらに，学生プロポジションでは 40 件の展示作品・研究が集まり、盛況のうち終えることができました。

春季大会，秋季企画大会ともに多くの方々にご尽力を賜りました．ここに，新ためて感謝の意を表する次第です．

企画委員会　支部企画

委員長　五十嵐 浩也

2014 年度も各支部によって、支部活動は活発に行われました。

特に、学生も参加する研究会等が活発に開催され、学会活動の活性化の一翼を担っていると言えます。一方、今期は支部企画として、稼働の活発化に伴い増加している支部が発行する刊行物等の位置づけ検討いたしました。

現在、継続検討中ですが、1）支部刊行物の体裁や運用に関する指針やフォーマットが必要であること、2）どの項目をどのように決めるかを検討すること、などが合意されています。

今後、学会の刊行物の名称検討などの推移にも注意しつつ、継続して検討し、決定する必要があります。

教育・資格委員会

委員長　古屋 繁

これまでの活動を継承し，「教育」と「資格」について，３つの具体的な施策を計画しました。

1）継続教育（CPD）

「継続教育」は，デザイン学会の特徴を活かしたものであり，社会人にとって価値ある具体的なプログラムのコンテンツにはどんなものが考えられるかについて情報を収集しながら，講演会を企画し，15 年度に実施する予定です。

以下の２項については，目標だけで具体的な活動はできませんでした。今後の課題としていきたと考えています。

2）デザイン実務者の成果発表媒体

3）資格制度「資格制度」は，「継続教育」とも関連する事案ですが，継続し

て JIDA との連携を深めていきます。

技術者教育認定機構（JABEE）については，専門職大学院における認証評価を中心にその動向は注視してきました。残念ながら，実際の認証評価の活動に参画することはできませんでしたが，評価の議論に関する情報をいろいろ入手することができました。

広報委員会

委員長　岡本 誠

広報委員会の役目は、広報活動を通じて、学会と社会をつなぎ、更に学会員同士の交流を促進することです。本年度は、１）学会ホームページのリニューアル、２）現状の学会ホームページやメーリングリストの運営、３）学会の魅力を伝える広報資料の検討、４）協賛・広報活動を通じた関連学会との連携強化に取り組みました。１）学会ホームページのリニューアルでは、デザイン学会の独自性のアピールやホームページの表現力の向上を念頭にリニューアルを進めました。トップページは、作品集の作品写真や論文集の目次を提示するように工夫しました。ホームページ内の各コンテンツは、従来通りに支部会、研究部会、委員会等でご利用頂けるよう設計しておりますので、積極的な活用をお願いいたします。ホームページのメンテナンスは継続して行いますので、ご意見等ありましたら学会事務局までご連絡ください。３）学会の魅力を伝える広報資料の検討では、デザイン学会の活動をアピールする広報資料を検討しました。次年度にこの資料を制作する計画です。

財務委員会

委員長　生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動した。

(1) 学生会員から正会員への移行、不明学生会員を減少させるための方策の検討。

(2) 学会の法人化を視野に入れた財務計画の立案。

(1) に関しては、学会全体としての会員数の増加につながる手立てについて、他の委員会と連携しながら積極的に打ち出すことで同意を得た。

(2) に関しては、学会誌編集出版委員会、本部事務局と連携しながら、概要集、研究誌，作品集の電子化に伴う収支のバランスのシミュレーションを行い、財務計画立案への基盤整備を行った。

市販図書企画・編集委員会

委員長　蓮見 孝

昨年度は，春季大会（福井工業大学）および秋季企画大会（東京造形大学）の場をお借りし，２回の委員会を実施いたしました.

７月５日には，福井工業大学にて，市販図書出版に関する課題や様々な意見交換を行い，委員会として対応の可能性を議論しました.

10 月 25 日（土）においては，東京造形大学にて，デザイン理論・方法論研究部会の活動からスタートした『デザイン科学事典』の編纂に関する議論を行いました．山中会長や編集委員との合同により，事典に掲載する内容の議論を行い，その共有化を図ることができました.

法人化特別対策委員会

委員長　國澤 好衛

本委員会は昨年度から新たに設置された時限付きの法人化のための特別委員会です。

昨年度は、理事会にて法人化へ移行した場合のメリット・デメリットについて幾度の議論を重ね、理事会においては、法人化に移行する方向で、ほぼまとまりつつあります。

ただ法人化は、学会にとって非常に重要な組織変更であり、会員の方のご理解、ご意見の徴収が必須であるため、チラシによる告知、意見徴収のためのサイトを設けました。

また第 62 回の総会にて、法人化について会員の方に説明を行い、ご意見を頂く予定です。

事務的な準備につきましても、定款案を作成を行ったり、移行時、移行後の経理処理について専門家にご相談したり、着々と準備を進めております。

しかし、まだ議論すべき、決定すべきことはたくさんあります。今後も多くの方々からのアドバイスを頂きながら、進めて参りたいと思います。

平成２６年度
春季研究発表大会実行委員会

実行委員長　池田 岳史

平成 26 年度の第 61 回春季研究発表大会は，2014 年７月４日（金）から６日（日）まで，“しあわせのデザイン” をテーマとし，福井県福井市の学校法人金井学園 福井工業大学 福井キャンパス（7/5,6），同市 AOSSA 福井県県民ホール（7/4）を会場に福井工業大学の共催で開催されました。本研究発表大会は会員を中心に 523 名の参加があり，大変盛会に開催することが出来ました。

本大会のテーマである「しあわせのデザイン」は，都道府県別幸福度ランキング１位の福井県での開催といった背景とともに，デザインは，しあわせ，幸福，よろこび，楽しさ，Happiness を求める人間の行動と深くかかわっていることを再認識する意味もあります。

基調講演では，慶應義塾大学大学院前野隆司教授をお招きし，「しあわせのメカニズムとデザイン」というテーマでお話しいただき，続く特別講演では，iki design company 代表の谷 俵太（越前屋 俵太）氏に，「面白いをデザインする」をテーマにご講演いただきました。

基調講演　前野隆司 教授

特別講演　谷 俵太氏

オーガナイズドセッションは，「50年後のしあわせな暮らし」，「インタフェースデザインの評価」，「演習課題から探る“しあわせ”のデザイン」，「次世代デザインの枠組みをさぐる：行為の中で見いだすデザインの実践」の４つのテーマでセッションが設けられました。

オーガナイズドセッションD

本大会での研究発表290件の内口頭発表は174件であり，各分野と10のテーマセッションにおいて会員の研究成果が発表されました。ポスター発表は例年を大きく上回る116件の発表があり，２日間に分けて発表されました。また学生交流ワークショップは，「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろう？」をテーマに実施されました。

企業展示には，地元福井県内の７企業・団体を含む，合計13の企業・団体に出展いただくとともに，福井県内情報を提供するおもてなしブース，県内の特産品を扱うお土産ブースを設けました。

大会初日夕方からのエクスカーションは，貸し切り電車での飲食，足湯，屋台村を楽しむ「えちぜん鉄道ツアー」，桂 蝶六師匠によるデザイン学会会員限定の「きたまえ亭落語会」を企画しました。また２日目夜の懇親会は175人のご参加をいただき，盛大に催されました。大会実行委員会では「しあわせ」の一つとして，大会にご参加いただく皆様に，豊かな福井の食材を楽しんでいただきたいと考え，福井産，福井ゆかりの料理を提供させていただきました。更に福井県酒造組合よりご提供いただいた，12蔵元，47銘柄，87本の日本酒を皆様にお楽しみいただきました。

大会の運営については，大会カラーの使用を徹底しましたが，特に会場サイン，スタッフのネクタイによる識別，学生スタッフによるオペレーション等について，多くの参加者から高い評価を得ることができました。

本大会では，「しあわせのデザイン」をテーマに，数多くの講演，発表，討論が行われました。生活文化の向上と産業の発展に関わるデザインは，これからも社会のさまざまな課題に向き合っていくことになり，この機会にあらためて，現在そして未来のしあわせのかたちを考えることができたのではないでしょうか。

ポスター発表

平成26年度秋季企画大会

実行委員長　玉田俊郎

去る2014年10月25日、日本デザイン学会秋季企画大会が東京造形大学を会場に開催されました。企画テーマは「グローバル連携とデザイン教育」です。一般的にグローバルという言葉は広く認知されていますが、国内教育分野では馴染みのある言葉ではありません。

一方、ヨーロッパ、とくにEU圏ではグローバルという言葉の使用の有無はともかく実質的な教育のグローバル化が進んでいます。EU域内での大学の交換留学はセメスター毎に自国以外の大学で学ぶことはほぼ義務化されています。

これはエラスムス計画（The European Community Action Scheme for the Mobility of University Students : ERASMUS）は、大学間交流協定等による共同教育プログラム（ICPs：Inter-University Co-operation Programmes）で各種の人材養成計画、科学・技術分野におけるＥＵ加盟国間の人物交流協力計画を指します。

エラスムス計画の提案は、１９８５年１２月、当時のＥＣ委員会より閣僚理事会に提出された計画書に始まり、１９８７年６月１５日正式決定され、パイロット・プログラムが開始されました。

アート・デザイン分野の教育ではエラスムス計画を起点としてCumulus（国際的美術・デザイン・メディア連合が１９９０年結成され、ヨーロッパからアジア、アメリカと広がりを見せ、２０１４年で４８カ国、２１１の教育機関が加盟しています。

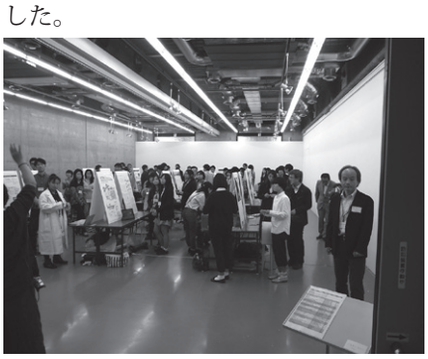
背景には美術・デザイン分野の世界的な広がりとともに、社会のさまざまな分野への積極的なコミットや国際的な連携を通して、DESISに見られるような国際課題を共同して取り組む機運が高まっていることがあります。

日本デザイン学会企画大会では上記の観点から、基調講演者としてCumulus理事のUlrich Schendzieloz教授を招き、Cumulusの活動や展開、将来展望を語って頂ました。また、Cumulusが国際連携で取組んでいるDESISの考え方、活動について東京造形大学、益田文和教授が基調報告を行いました。

基調講演、基調報告の後、圓山 憲子先生［武蔵野美術大学、国際センター長］樋口 孝之先生［千葉大学］益田文和先生［東京造形大学］モデレータ｜玉田 俊郎［東京造形大学］でパネルディスカッションを行いました。この中で、それぞれの大学に取組んでいる事例紹介とディスカッションが行われました。日本における美術・デザインのグローバル連携は制度やカリキュラム、アドミニストレーションの機能強化、学生の資質向上、など多くの課題があるがグローバル教育の推進と連携は今後ますます必要となってくることは確実であり、更なる情報交換と各大学での取組みが求められるとの共通認識を持ちました。

また､学生プロポジション展覧会［全国のデザイン学生作品］を東京造形大学、ZOKEI ギャラリーで行い、活発な発表と質疑応答がなされました。その他、ZOKEI 教育展 ―ZOKEI DESIGN 社会への照準―〈東京造形大学附属美術館〉を開催しました。

●大会プログラム
9:30-10:00　開会挨拶、学会賞授与など
10:00-11:00　基調講演｜Ulrich Schendzieloz［シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授］
「グローバル連携とデザイン教育 ―Cumulus の活動と展開 ―」
※ Cumulus：国際的美術・デザイン・メディア大学連合
11:00-12:00　基調報告｜益田 文和［東京造形大学教授］
「DESIS の活動と展開 ―ソーシャルデザイン＋サステナブルデザイン―」
※ DESIS［デスィズ］とは、デザインに関する教育プログラム、デザインラボ間のネットワーク。DESIS は UNEP［国連環境計画］の支援を受けた活動。
昼 食〈学 食〉
12:00-14:30　学生プロポジション展覧会［全国のデザイン学生作品］〈ZOKEI ギャラリー〉
ZOKEI 教育展 ―ZOKEI DESIGN 社会への照準―〈東京造形大学附属美術館〉
14:50-16:50　パネルディスカッション
テーマ｜グローバル連携とデザイン教育 ―その取組みと展開―
パネラー｜ Matthias Held［シュビービッシュ・ゲミュント造形大学］，圓山 憲子［武蔵野美術大学、国際センター長］，樋口 孝之［千葉大学］，益田文和［東京造形大学］
モデレータ｜玉田 俊郎［東京造形大学］
16:50-17:00　閉会挨拶
17:15-18:45　交流会〈CS プラザ〉
＊ なお、本文エラスム計画と表記につきまして文科 HP：www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/ を参考としました。


学生プロポジション展覧会会場

学会各賞選考委員会担当

担当理事　松岡 由幸

昨年度の学会各賞選考結果を，ご報告いたします.
＜年間論文賞＞
・工藤真生，山本早里：「ユニバーサルに配慮したピクトグラムの諸条件に関する研究－知的障害に着目して」
＜特別賞＞
・丸谷彰：40 数年に亘り地域環境デザインやエディトリアルデザインの教育研究実践に寄与した特段の功績に対して.
＜功労賞＞
以下の２名の先生方が授賞されました.
・野口尚考
・高橋靖
なお，昨年度の度学会各賞選考委員会の構成は，以下の通りです.
委員長：青木弘行
委員：清水泰博，庄子晃子，杉山和雄，原田昭，松岡由幸，宮崎清，宮内悊，森典彦

Design シンポジウム担当

担当理事　松岡 由幸

Design シンポジウムは，日本のデザイン・設計に関する学会の共催により，２年に一度開催されています. 現在は，当学会に加え，日本建築学会，日本機械学会，日本設計工学会，精密工学会，人工知能学会の６学会が共同で運用しています.

平成 26 年度は，日本設計工学会が幹事学会として，東京大学生産技術研究所にて，11 月 11 日（火）から 13 日（木）の日程で開催されました. 一般講演，特別講演，および Design シンポジウムのこれまでとこれからを議論する 10 周年パネルディスカッションなどを行われ，当学会からも多くの会員が参加し，デザイン・設計に関わる他学会との連携を深めていきました.

ＩＡＳＤＲ担当

担当理事　山中 敏正

IASDR の 2013 年大会を終え、2015 年のブリスベーン大会に向けての準備を進める年であった。

5 月 13 日にオンラインで理事会を開催し、日本側からの理事として杉山和雄元日本デザイン学会会長に代わり渡邊誠副会長を推薦し、了承された。会長の方針、財務状況などを確認した上で、組織の大きな改変として、Cumulus と協力する方向性について審議し、了承した。9 月に南アメリカで開催された Cumulus の年次大会に会長・事務局長が出席し、Cumulus と IASDR の間の包括的協力関係が結ばれることとなった。Cumulus は研究組織ではないが，IASDR 活動の広報や参加の呼びかけなどを協力して推進することとし，関係会員のための参加費の減額などの措置について双方で検討する

ことになったが、IASDR はこれまでも会員参加費を設定しておらず、今後の検討課題に留まっている。

また、2017 年大会の開催地についても議論し、これまでどおり公募することを決定した。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学 藝術学関連学会連合

担当理事　小林 昭世

日本学術会議第 1 部傘下の藝術学関連学会連合（日本デザイン学会を含む 15 学会により構成）では、シンポジウムの開催を主要な事業としています。2014 年度は、第 9 回公開シンポジウムを、東京国立近代美術館講堂にて「藝術の腐葉土としてのダークサイド」をテーマに 6 月 7 日に開催いたしました。

本テーマは広島芸術学会からの提案で、暗部に焦点をあてて芸術を考えるという主旨でした。「九相図」や瞽女（ごぜ）、戦災という広島、震災の東北等、社会の暗部と負の文化遺産などが、現代の文明を彩り培う影として寄り添っていることを示そうとするものでした。このシンポジウム開催以降、清水泰博理事から担当を引き継ぎました。

横断型基幹科学技術 研究団体連合

担当理事　松岡 由幸

横幹連合は 2003 年に創設され，新たな横幹型科学の構築に向け，それに共感する学会が会員となる学会のための学会です.

当学会からは，松岡が理事として参画しており，雑誌「横幹」の企画編集やシンポジウムのテーマセッション企画などを行ってきました.

昨年度も，11 月に総合シンポジウム（東京大学）が行われるとともに，4 回の横幹技術フォーラムが実施されるなど，活発な議論が行われました.

日本工学会

担当理事　國澤 好衛

工学系の学協会の連合組織である公益社団法人日本工学会は、加盟する学協会が抱える共通的な課題を議論する場として機能しています。本学会では、学協会の運営事務に関わる「事務研究委員会」および各学協会の取り扱う技術分野の継続教育の推進に関わる「CPD 協議会」に参加しています。そのなかで、現在は、公益法人制度改革に伴う新公益法人への移行、学協会運営のための会計・税務、役員選挙等における電子投票制度の可能性、学協会の情報セキュリティへの取り組みや継続教育の制度化等を議論しています。その内容については、一部を理事会，評議員会で報告していますが、今後も情報収集につとめ、本学会の運営改善につなげて行きたいと思います。

第 1 支部

支部長　両角 清隆

第 1 支部の 2014 年度の主な活動は 2 つであった。

第 1 支部では学生の活動の支援を、主な活動の一つと考えている。具体的な活動の可能性について検討したところ、支部幹事から提案されたソフトウェアの学習会に対して、第 1 支部が協賛・補助し、関心のある学生が参加しやすい環境を作る提案がなされた。提案に基づき、9 月 26 日・27 日に開催された「Rhinoceros + grasshopper」についての WS（東北芸術工科大学を会場）に対して補助を行った。東北芸術工科大学のほか、東北工業大学、はこだて未来大学、宮城大学、東北大学などから学生が参加し、成功裏に終了した。

2 点目は、2 年に 1 度開催している支部大会について、6 月の春季大会において幹事会を開催し検討した。2015 年 9 月に東北芸術工科大学（山形）で第 6 回第 1 支部大会を開催することを決定し、内容を詰めていくことになった。地理的になかなか交流の難しい学生の交流を、一緒に学べる WS 形式で検討することにした。また、多くの大学の教員に実行委員として参加してもらい、参加大学を増やす工夫をすることにした。

第 2 支部

支部長　五十嵐 浩也

第 2 支部は、昨年度計画において、活動の基本方針として産学連携をあげ、その計画・実行に取り組みました。

JIDA、JDP と連携して教育・研究者，学生と現場のデザイナーとの意見交換の場を設ける、また研究推進委員会と連携し、セミナーを開催するなどいくつかの計画は立案しましたが、実現には至っておりません。

第 2 支部の規模の大きさ、会員の多様性からも、乗り越えるべき障壁は多いのですが、来年度はなんとか実現に向けて活動して参りたいと思います。

第 3 支部

支部長　國本 桂史

第 3 支部では、会員交流と活動の活性化に加え、平成 26 年度は学生会員の拡大も目標として、下記の事業を実施しました。

1. 第 3 支部研究発表会・懇親会

目的：第 3 支部会員のデザイン活動・研究内容を発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通して交流を深めるとともに、学生に学会発表の機会を提供すること。

日時：平成 27 年 3 月 21 日（土・祝）午前 11 時 ～ 午後 6 時 45 分

内容：口頭発表、ポスター発表、表彰、懇親会

会場：名古屋市立大学病院（愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1）

参加：33 名（会員 10 名、非会員 8 名、学生 15 名）

発表：22 件（口頭 17 件、ポスター 5 件）

概要：10 回目となる本研究発表会は、名古屋市立大学病院中央診療棟・病棟

の会議室２部屋が会場となりました。

口頭発表にオーガナイズドセッション (ヘルスケア＆メディカルデザイン) を設け、5 件の発表がありました。一方、ポスター発表は例年の懇親会中の実施ではなく、口頭発表のセッション後に行いました。参加者が集中して聴ける場を整えたことで、活発な議論が行え、また実機による発表もあり、活気ある質疑応答が行われました。懇親会では、若手研究者を奨励するために、前々回から実施の優秀発表賞制度に基づいて、学生発表者から３名（口頭発表２件、ポスター発表１件）を表彰しました。また、名古屋市立大学病院中央部門の医療デザイン研究センター（センター長：國本桂史）の見学説明会も開催し、存在意義や体制、研究開発の事例等が、センター長から紹介・説明されました。

なお、研究発表会の各概要は、ISSN を取得した第３支部研究発表会概要集に収録され（ISSN 2188-479X)、国立国会図書館に収蔵されています。優秀発表賞受賞者は以下の３名です。

■鶴見慎吾（名古屋市立大学）「医療・看護領域における移動装置のデザイン設計要件に関する研究」

■楠本真弘（同志社大学）「小型・超軽量・高均斉度特性を持つ反射型タスクライトの提案」

■白江 文（福井工業大学）「Hassist 握力障がい者のためのロボットカトラリー」

2. 日本デザイン学会奨励賞第３支部

第３支部では、支部会員のデザイン活動や研究活動の発表の場として研究発表会を開催し、会員間の交流を促進しています。これまでの研究発表会においても、学生の優秀な研究や制作の成果が発表されてきました。

これまでの成果、日本デザイン学会の学生会員制度を踏まえ、支部幹事会は、学部生、大学院生のデザイン活動、研究活動の評価のための学生表彰制度と、学生間交流の活発化を目的とした学生会を順次スタートさせてきました。特に表彰制度については、各所属機関（大学、大学院、短期大学）において優秀な研究、制作活動を行った学部生、大学院生を対象とした奨励賞を設定し、第３支部研究発表会での優秀発表学生に対する表彰とともに、一昨年度よりスタートさせました。

奨励賞受賞者は以下の 12 名です。

■畠中勇樹（福井工業大学大学院工学研究科）「病院における参加型アート＆デザインの効果」

■塚田健太郎（福井工業大学工学部）「Ｗｈｉｓｋ　水田初期除草ロボットモビリティ」

■柿澤佑輔（名古屋学芸大学メディア造形学部）「Polygom」

■尾方美波（名古屋学芸大学メディア造形学部）「Sakura Shelter」

■木全麻子（愛知産業大学造形学部）「現代人のための安らぐ空間及びモノの研究・制作／ Petal」

■坂井美咲（金城学院大学生活環境学部）「MANEKINEKO　～ラッキーゴッド」

■石井彩華（椙山女学園大学生活科学部）「心理評価と体圧分布を用いた複合クッション材の座り心地予測に関する研究」

■大島佳奈（椙山女学園大学生活科学部）「タルト専用包丁の研究」

■白柳爛（長野大学企業情報学部）「地域資源としての温泉と病院に関する研究」

■滝沢啓（長野大学企業情報学部）「信州の文化を用いた粉末飲料「茶の実」の提案」

■鶴見慎吾（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科）「医療・看護領域における移動装置のデザイン設計要件に関する研究」

■野村綾菜（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科）「新しく使いやすい電気メスのデザイン設計要件に関する研究」

第４支部

前支部長　益岡 了

１）日本デザイン学会第４支部インタラクションデザイン研究会の一環として , アルス・エレクトロニカ（ArsElectronica）2014 や文化庁メディア芸術祭（2015）で受賞された五島一浩会員を講師に招き，2014 年 11 月 20 日（木）京都工芸繊維大学 3 号館 1 階 0311 号教室において，メディアアートの現在・未来について講演会を催しました．それに伴い作品展示を 2014 年 11 月 21 日（金）～ 11 月 27 日（木）の期間，京都工芸繊維大学プラザ KIT で実施しました . これらの開催に当たっては，京都工芸繊維大学櫛勝彦会員の全面的な支援を頂いています.

なお同時開催イベントとして，日本デザイン学会情報デザイン研究部会の研究会を第 4 支部との共催で，五島会員の作品事例・技術紹介と交流会を，11 月 21 日（金）17：30 ～ 20：00 ソフトディバイス .Lab において行いました．この開催に当たっては（株）ソフトディバイス八田晃（代表取締役）会員，野々山正章会員の手厚い協力を得ました．以上の行事を通じて，映像デザインやインタラクションデザイン領域の可能性の理解や第 4 支部内の専門家や学生の交流が実現出来ました.

２）第 4 支部は，2014 年 12 月 13 日（土）岡山県立大学で行われた「平成 26 年度日本人間工学会中国・四国支部，関西支部合同大会」を共催し，実行委員会に参画しその開催に協力しました．当大会では「日本人間工学会アーゴデザイン部会・ビッグデータ人間工学研究部会合同シンポジウム開催　ユーザ情報を還元活用するユニバーサルデザイン」の講演・パネリストを岡田明第 4 支部副支部長が務め，さらに多くの日本デザイン学会会員が参加し，当該分野の様々な研究・先端事例に触れ，交流する機会を得ました.

３）日本デザイン学会第 4 支部研究発表会を , 平成 27 年 2 月 8 日 (日), 大阪工業大学うめきたナレッジセンター

にて開催し , 以下の口頭発表と研究交流会を，山中敏正デザイン学会会長の出席のもと実施しました . 当日の発表などのスケジュールは下記の通りで,口答発表 11 件 , 対話発表 1 件の発表が行われました .

会場風景

会場風景

1 , 四支部研究発表会開会挨拶（益岡　了支部長）

2，口答発表第 1 セッション　10:55-11:40（司会：赤井　愛）

01 益岡　了「PC オーディオデザインの提案　– 非直方体エンクロージャと複合バッフル」

（岡山県立大学デザイン学部）

02 谷本　尚子「明治期の初等教育と毛筆画　–『小学日本画初歩』について -」

（京都市立芸術大学美術学部）

03 吉田美穂子「分数多角形と対数螺旋のフォルム」

（梅花女子大学）

3，口答発表第 2 セッション

13:00-14:00（司会：谷本　尚子）

04 中原　嘉之「折紙の展開機構を利用した部分剛接合骨組による展開構造」

（岡山県立大学デザイン学部）

05 井上　勝雄「順序選好を用いた製品デザイン調査手法の提案」

（広島国際大学）

06 益田　雄司「タッチパネル操作時の触覚フィードバックに関する研究」

（京都工芸繊維大学大学院）

07 青山　英樹「視覚シミュレーションに基づく高齢者用スマートフォン画面デザイン」

（慶應義塾大学理工学部）

●口答発表第 3 セッション

14:15-15:15（司会：益岡　了）

08 坂田　紘一「盲導犬とユーザーの快適な歩行の実現に関する研究

その 1　楕円型ハーネスの形態最適化」

（大阪工業大学工学部）

09 佐野　大貴『盲導犬とユーザーの快適な歩行の実現に関する研究

その 2　楕円形ハーネスのグリップに必要な要素」

（大阪工業大学大学院）

10 上野　志歩「盲導犬とユーザーの快適な歩行の実現に関する研究

その 3　　階層分析法に基づくハーネスグリップ形状の検討」

（大阪工業大学大学院）

11 木村　元彦「大阪工業大学環境教育セミナーハウス「源流分校」サイン計画」

（大阪工業大学工学部）

●対話発表

1530-

P01千田　有佳里「画面デザインに対する GUI チェックリストの活用」

（京都女子大学家政学部）

第 5 支部

支部長　井上 貢一

平成 26 年度、第 5 支部では、「学生デザイン展」と「研究発表会・懇親会」の 2 つの事業を実施しました。結果を以下のとおりご報告します。

1. 第 6 回九州沖縄地区　学生デザイン展

閉会式風景

会場：九州芸文館　大交流室、アネックスギャラリー

福岡県筑後市大字津島 1131

日程：平成 26 年 6 月 18 日 (水) ～ 28 日 (土)

共催：NPO 法人芸術の森デザイン会議、九州芸文館

平成 26 年度は、福岡県に新設された芸術文化の交流拠点「九州芸文館」のご好意により、会場費減免での開催となりました。

九州新幹線筑後船小屋駅に隣接する会場で、期間はこれまでより長い 11 日間。デザイン学会会員の教育の成果である学生デザイン作品が九州の各地から計 70 点。一般来場者も 673 名と良好。地域の多くの方々にデザインの裾野の広さを伝え ることができました。

2. 平成 26 年度 日本デザイン学会第 5 支部 研究発表会・懇親会

会場：九州産業大学 15 号館（芸術学部棟）

福岡県福岡市東区松香台 2-3-1

日程：平成 26 年 10 月 18 日（土）

平成 26 年度は九州産業大学が会場となり、発表 39 件、参加者 63 名での開催とな りました。

概要集の電子化をはじめて、最初の研究発表会となりましたが、当日会場でのネットワークや USB メモリーによる PDF の配布を行ったことで大きなトラブルもなく、無事に会を終えることができました。

本部事務局

前本部事務局長　小野 健太

平成 26 年度末の会員数は、正会員 1,467 名、学生会員数 245 名、賛助会員数 31 件、年間購読会員 59 件です。正会員と学生会員を合わせた会員数は 1,712 名で、昨年の同時期（1,718 名）と比較して 6 名の減少となりました。

学生会員制度の発足以来、学生会員の手続きが懸案となっています。学生会員で年度末の更新や卒業後の移行手続きを行わない会員が多く、事務局による会員資格の確認や会費の督促に関

する作業負担が大きくなっています。入会時の案内に更新などの手続きについて明記するなどの対策を行ってきましたが、今後に向けて、より円滑な更新手続きが行われるようにするための措置が必要です。

学会誌の完全電子化に向けて、学会誌編集・出版委員会、財務委員会と連携し、財政的、事務手続きにどのような問題が生じるかシミュレーションを行いながら、様々な議論を行って参りました。また法人化問題についても、法人化対策特別委員会と連携しながら、制度上、事務手続き上の問題点を挙げながら、様々な議論を行って参りました。

どちらも大きな変更となりますが、よりスムーズな実現に向けて、引き続き、検討・実行して行きたいと思います。

教育部会

主査　金子 武志

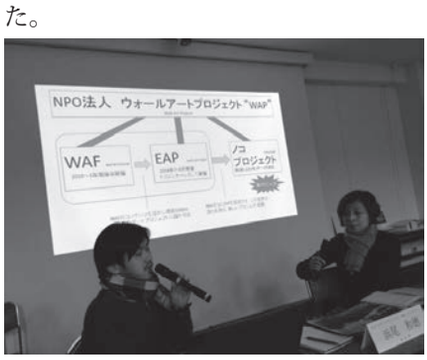
2014 年度（平成 26 年度）テーマ:「まなびのかたち、おしえのかたち」

デザイン分野に限らず、時代とともに学生の気質も変わり、教育現場の考え方や授業の内容・スタイルも社会のニーズに即応しながらこれまで色々と変ってきた。また現在は幼稚園から大学院までの教育機関に限らず、地域のコミュニティー、美術館主催のアートプロジェクト、ネットを利用した通信講座など、教え伝える方法も学ぶための手段も多様化している。そこには時代とともに変っていくかたちと、いつまでも変らない何か、があるに違いない。今回はその辺りに触れるため、これまでの既成のデザイン教育から離れた観点で数名の方々に発表していただいた。３回実施したデザイン教育研究会では今後に向けた色々な可能性を参加者と共に探り、さまざまな意識交流を計ることができた。

第 1 回　平成 26 年 9 月 19 日（金）18:00~20:00
会　場：日本大学芸術学部（練馬区江古田）
参加者：約 25 名
講　師：細谷誠（日本大学芸術学部デザイン学科准教授）
テーマ：「まなびのかたち、おしえのかたち」
概　要：日本大学芸術学部デザイン学科インタラクティブデザイン分野が取り組んでいる新しいデザイン教育の実験（①～③）を発表。今回は実際に学生と行っているワークショップを研究会参加者に体験してもらいながらの研究会となった。
デザイン教育の実験：
①新しい「まなびのかたち、おしえのかたち」自体を考える「アート教育」の授業。
②観察・共感・本質から導かれるデザインや新しいデザインプロセスを実践する「インタラクションデザイン」の授業。
③授業外のプロジェクト（ネットワーク配信による「ものづくり」授業の運営など）

第 1 回研究会の様子

第 2 回　平成 26 年 11 月 21 日（金）18:00~20:00
テーマ：「自然との共生：持続可能なまなびのかたち　～アート、デザインは何が出来るのか」
会　場：女子美術大学杉並キャンパス（杉並区和田）
参加者：約 20 名
講　師：おおくにあきこ／浜尾和徳（NPO 法人 Wall Art Project 総括ディレクター／ディレクター兼コーディネーター）
概　要：2009 年からインド農村部３カ所、国内数カ所で展開してきたウォールアートプロジェクトは地元の人々と協働しアートプロジェクトを展開することでアートの力を人々に伝えてきた。このプロジェクトには国内の多くの学生達が教育機関の垣根を越えて参加し、自由性、平等性、人と人を繋ぐ力など、アートは沢山の力を持っていることをアーティストと共有してきた。そこにはこれまでの教育機関ではなかった「まなびのかたち、おしえのかたち」が存在するのではないだろうか。ウォールアートプロジェクトのこれまでの実践・活動を紹介すると共に、新しい試みについて参加者それぞれと対話する時間を持つことが出来た。



第 2 回研究会の様子

第 3 回　平成 27 年 3 月 13 日（金）18:00~20:00
テーマ：「まなびのかたち、おしえのかたち」座談会：～私の受けた教育～
会　場：日本デザイン専門学校（渋谷区千駄ヶ谷）
参加者：約 15 名
進　行：金子武志（日本デザイン専門学校教授／ものデザイン学科主任
教育部会主査）
概　要：年度テーマ「まなびのかたち、おしえのかたち」のまとめとして出席者との座談会を行った。まず教育部会のメンバーを中心に「私の受けた教育」についてのエッセイ（1000~1500 字程度）を事前に執筆していただき配布資料とした。研究会当日はその資料を利用しながら出席者それぞれの「まなびのかたち、おしえのかたち」の体験談を披露してもらい参加者全体でシェアした。

第３回研究会の様子

家具・木工部会

主査　阿部 眞理

平成 26 年度の家具・木工研究部会の主な活動は以下の４件である。

1. 研究部会総会の開催

総会は，第 61 回日本デザイン学会春季研究発表大会の開催にあわせて実施した。各部会員の諸々の都合により出席者は少なかったが，新入会員の参加もあり，今期の活動内容を審議し，決定した。

2. 家具・木工研究部会主催テーマセッション「伝統的資源と現在学」の実施

第 61 回日本デザイン学会春季研究発表大会において，テーマセッション「伝統的資源と現在学」を実施した。発表件数は５件であった。

3. 研究部会誌「家具・木工通信」の発行

研究部会誌「家具・木工通信」の第 59 号を平成 27 年３月に発行した。

4. 家具・木工関連情報の配信

家具・木工に関連したセミナーおよび研究会，展示会等の案内を会員へ向けて配信した。

プロダクトデザイン研究部会

主査　山崎和彦

本年度の主な活動は、１）プロダクトデザイン研究部会の開催、２）関連団体 (日本インダストリアルデザイナー協会、人間中心設計機構等) とのイベントの開催、3) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信 (日本デザイン学会 Web サイト、プロダクトデザイン研究部会 Facebook 等) などの活動でした。７月５日（土）に開催したプロダクトデザイン研究会では、「ソシオデザイン」蓮見孝（札幌市立大学）「プロダクトデザインの基礎の本」、佐藤弘喜（千葉工業大学）「品質とプロダクトデザイン」塚原肇（実践女子大）、「キッズデザインのための活動」金井宏水（株式会社 TDC）、「企業におけるデザイン思考の活用」山崎和彦（千葉工業大学）の講演でディスカッションを実施しました。

環境デザイン部会

主査　山田弘和

環境デザイン部会では、2011 年の 3.11 大震災以来、「安心安全～震災後の環境デザイン」、「残すべきものとは」をテーマに継続的な活動を行ってきました。

平成 26 年度も、震災後というキーワードを継承発展させて、大会テーマとも重なる「50 年後のしあわせな暮らし」をテーマに、第 61 回春季大会にてオーガナイズドセッションを行いました。モデレーターを清水泰博氏として、３名のパネラーが発表を行いました。部会の山田弘和はプロダクトデザインの視点から、オープン型のデジタル・ファブリケーションを例とする、新たなモノづくりの仕組みによる共生と自立に向かう環境のイメージが提案されました。造園家で景観と住まいの研究をする田瀬理夫氏の提案は、「ひとの居場所から考える～ Living in National Treasures」とは地域性や社会性の備わった空間で暮らすこと、すなわち「国の宝の中で暮らす意識」が 50 年後に通用するビジョンではないかと提案されました。福井工業大准教授で都市計画家の木川剛氏からは、福井の敦賀市をケースに、地方都市は中心街に歩いて行ける「コンパクトシティ」が目標で、スペースシンタクスの事例としても、分散化、クラスター化が求められていると提案されました。

年間３回発行の会報 ED Place では、72 号において、特集「50 年後のしあわせな暮らし」としてこの記録を掲載しました。この他、本年度の会報は、70 号特集「卒業制作」、71 号特集「東海ブロック」が発行されました。

出版については、これまで部会として進めてきた東日本大震災に関するまとめとして、部員の共同執筆による編集を行い、次年度の日本デザイン学会特集号に「震災後の環境デザイン～残すべきものとは」として刊行を目指し編纂を行っています。

見学会は３月２８日（土）に「定点観測ツアー for2020」として、オリンピック・パラリンピック開催予定地の定点観測見学会を行いました。部会員の他、学生、一般参加者を加えた参加者 33 名によるバスと踏査による見学で、見学後にはオリンピックと都市計画の研究をされている建築家の白井宏昌氏をお招きし、会場施設を見下ろせる豊洲の超高層タワーにて講演会を行い、その後、参加者との懇親会を行いました。以上報告です。

デザイン史研究部会

主査　立部 紀夫

平成 26 年度デザイン史部会では以下の発表形式の研究会を開催しました。本年度も同様の研究会を進めて行く予定です。

■第３２回研究会
開催日：平成 26 年 11 月 29 日
テーマ：「ペーター・ベーレンス　―モダン・デザイン開拓者の一生」
発表者：椎名輝世氏
場　所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店
参加者：７名

■第３３回研究会
開催日：平成 27 年３月 21 日
テーマ：「モホイ＝ナジ・ラースロのデザイン活動」
発表者：利光　功氏（日本アートマネジメント学会会長）
場　所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店
参加者 11 名

デザイン理論・方法論部会

主査　松岡 由幸

デザイン理論・方法論部会は，デザイン方法論部会を拡張するかたちで，平成 20 年（2008 年）4 月に設立されました．その後，春季大会では毎年，企画セッションによる発表を継続するとともに，多くのシンポジムや研究会を実施し，延べ 200 名以上の国内外のデザイナーや研究者が集い，デザイン理論・方法論の構築に向けて多くの議論を進めてきました．

昨年度も，7 月 25 日には，慶應義塾大学において，デザイン塾「タイムアクシスデザインの創験」を主催しました．

それらの成果は，『デザイン科学事典』（日本デザイン学会編，丸善出版）として結実すべく，現在，その編纂に務めています．

ファッションデザイン部会

主査　常見美紀子

ファッションデザイン部会の 26 年度研究例会は、2014 年 9 月 12 日（金）に大妻女子大学千代田キャンパス本館において開催した。今回は以下二つの研究発表が行われた。

■長沢幸子氏（文化学園大学）
テーマ：ファッションイラストレーションの表現描法の多面的研究

ファッションイラストレーションの表現描法について、まず浮世絵からはじまる歴史的変遷について概観した。それを基に、長沢氏自身が CG によって新描法の創造・開発を行った具体的な経緯について講述した。さらに、定性的考察・定量的検証を行うことで、ファッションイラストレーション分野の発展に寄与できる愚弟的な内容について話された。

■神野　由紀氏（関東学院大学）・中川　麻子氏（大妻女子大学）
テーマ：デザインとジェンダー
－近代の女性における〈手作り〉の意味に関する考察－

明治初めの「手芸」という言葉の始まりから、戦後の大量生産による膨大な既製品に囲まれるなか女性たちは手芸という趣味を通して、あえて「手作り」を続けていたことを概観した。さらに 1970 年代、専業主婦率がピークに達した時におこったインテリア手芸ブームについて、雑誌調査から主婦達の手芸作品のデザイン分析、また当時のブームを支えた女性たちへのアンケート・インタビュー調査から、手芸の背後にある女性の意識について述べ、デザインとジェンダーの関係を考察した。

発表後、二つの研究発表に対して活発な質疑応答がなされ、和やかななかに有意義に研究例会を終えた。27 年度の研究例会は、9 月上旬に行う予定である。

情報デザイン部会

主査　永井 由美子

（1）春季大会にて全体会開催

若手の現場デザイナーに多く参加してもらうために、今まで設置していなかった幹事役を設置、若手現場デザイナーが部会運営に積極的に参加できるようにした。

（2）幹事会開催

忙しい若手デザイナーが参加しやすい運営方法などの検討、平日夜の集まりやすい場所での短時間の会合を行い、部会の運営方針検討、テーマ決めを行った。

（3）研究会開催 5 回

現場でテーマとなっている話題を中心に、研究会を 5 回開催。

・デザインの手法や技術の研究会
・現在のデザイン業務の活動報告
・情報デザインの未来
・子育の記録に関するワークショップ

【総会 2014/07/06】
“JSSD 春季大会“
総会，30 名

【幹事会 1 2014/07/29】
“Yahoo! 会議室“
今後の方針決め，6 名

【幹事会 2 2014/08/25】
“シェア奥沢“
テーマ決め，6 名

【研究会 1 2014/11/21】
“映像技術の UI デザインへの応用研究会“
ソフトディバイス .Lab
デザインの手法や技術の研究，35 名

【研究会 2 2015/01/11】
“子育てとデザイン”
シェア奥沢
テーマ決め，3 名

【研究会 3 2015/01/31】
“InfoD-STYLE”
Yahoo! 会議室
現場の仕事の活動報告，34 名

【研究会 4 2015/03/14】
“infoD-Vision”
多摩美上野毛会議室
情報デザインの未来，60 名

【研究会 5 2015/03/25】
“子育てとデザイン”
シェア奥沢
子育での記録に関するワークショップ，19 名

創造性研究部会

主査　永井由佳里

デザインの創造性とイノベーションについて、創造性研究部会メンバーを中心に学会内外の研究者、実践者、学生、産業界、との研究交流を深めるとともに、グローバルな規模で研究議論を展開した。第 61 回春季研究発表大会では、創造性研究部会の企画によるテーマセッション「生活を豊かにするインタラクションのデザイン」での研究発表を募集し、10 件の研究発表が行われた。ウェルビーイングやサスティナビリティ社会を目指すデザインの方向性、及び、観光価値や製品価値を創出するユーザ参加型のデザイン、経験をベースにしたインタラクションのデザイン等、多様なアプローチでのデザイン研究が発表され、活発なディスカッションが行われた。特に、本研究部会は国際的に展開しており、1 月にはバンガロールにあ

る Indian Institute of Science で、3rd International Conference on Design Creativity が開催され、イノベーション、デザイン思考、デザイン教育等について、第一線で活躍する世界の研究者や博士後期課程学生が集い、研究発表と議論を重ねた。

タイポグラフィ研究部会

主査　石川 重遠

これまでタイポグラフィ研究部会の活動として、印刷博物館（東京）と共催でタイポグラフィに関する講演会を継続的に行ってきた。平成 26 年度の活動として、本年 5 月 16 日に印刷博物館において英国レディング大学タイポグラフィ＆グラフィックコミュニケーション学科のジェリー・レオニダス先生の講演を実施し、イギリスの大学におけるタイポグラフィの授業が伝統的な基礎教育を重要視している事が印象的であり、また、学ぶ学生の多様性に国際性を感じる事ができた。

サービスイノベーションデザイン研究部会

主査　古屋 繁

春季研究発表大会では，研究部会として 8 件の発表を実施しました。

また，10 月 21 日から 23 日まで，マレーシアの UniversityMalaysiaSarawak（UNIMAS）で 4th ISIDC（InternationalServiceInnovationDesignConference）が開催されました。この運営に日本側の窓口として協力してきましたが，大変盛況でした。この学会では，デザイン学会以外の研究者とも交流することができ，有意義なものとなりました。

さらに，このところ停滞気味であった研究部会としても種々のサービスデザインに関する勉強会を，是非開催したいと考えています。

子どものためのデザイン部会

主査　岡崎 章

本部会は，H25 年 9 月 20 日に承認され，H26 年春季研究発表大会にて初のテーマセッション「子どものためのデザイン」及び部会を開催しました．多様な研究領域の研究者が集い，今後の展開に向けた議論を深めました．

運営委員幹事は，工藤芳彰，若林尚樹でした．

平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日－平成 27 年 3 月 31 日）決算報告

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減対予算額	決算額内訳	
平成25年度繰越金	11,598,845	11,598,845	0		11,598,845
1 正会員費（現）	16,406,000	17,478,500	1,072,500	@13,000×1,322名	17,186,000
				@6,500×45名	292,500
2 正会員費（新）	1,820,000	2,324,680	504,680	@18,000×92名（一般　入会金：5,000，年会費：13,000）	1,631,180
				@6,500×107名（学生　入会金：免除，年会費：6,500）	693,500
3 賛助会員費（現）	910,000	859,568	−50,432	28件	859,568
4 賛助会員費（新）	30,000	30,000	0	1件	30,000
5 年間購読会員費（現）	1,475,000	1,470,000	−5,000	@25,000×59件	1,470,000
6 年間購読会員費（新）	75,000	0	−75,000		0
7 広告費	100,000	0	−100,000	0件	0
8 学会誌掲載別刷料･負担金	4,170,000	3,268,518	−901,482	論文集別刷料･ｶﾗｰ印刷負担金	1,020,000
				作品集別刷料･ｶﾗｰ印刷負担金	1,328,518
				平成25年度作品集別刷料･ｶﾗｰ印刷負担金	920,000
9 概要集売上金	2,100,000	1,834,000	−266,000	@3,500×524冊	1,834,000
10 雑収入	850,000	758,588	−91,412	学会誌売上	22,000
				NII-ELS還元金、補助金、預金利息等	732,796
				その他	3,792
11 寄付金	0	24,000	24,000		24,000
計	**39,534,845**	**39,646,699**	**111,854**		**39,646,699**

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減対予算額	決算額内訳	
本部事務局＆理事会関係	**9,022,000**	**7,527,827**	**−1,494,173**		
1 本部事務局経費	8,122,000	6,780,581	−1,341,419	消耗品代	102,769
				運営経費（春季大会出張費用含む）	160,621
				パート雇用費（@180,000×12,@180,000×2）	2,520,000
				通勤費（@6,000x12）	72,000
				施設設備費	0
				通信費及び電話代金	564,554
				印刷代	114,195
				雑費	82,381
				会費引落経費	125,624
				賃貸料（@150,000×12ヶ月）	1,800,000
				光熱費	152,733
				アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿管理補助等)	910,000
				租税公課	70,000
				労災保険料	105,704
2 理事会運営費	300,000	232,246	−67,754	会場借用料、理事会運営経費等	232,246
3 役員活動費	600,000	515,000	−85,000	役員の諸活動に対する補助	515,000
4 選挙経費	0	0	0	選挙に関する費用	0
出版関係	**1,540,000**	**861,638**	**−678,362**		
5 論文審査委員会経費	480,000	370,000	−110,000		370,000
6 作品審査委員会経費	250,000	91,764	−158,236	前年度残金	−86,702
				作品集編集費	178,466
7 学会誌編集・出版委員会経費	30,000	5,000	−25,000		5,000
8 特集号編集委員会経費	780,000	394,874	−385,126	第21巻1号編集委員会	−4,709
				第21巻3号編集委員会	62,860
				第21巻4号編集委員会	76,723
				第22巻1号編集委員会	130,000
				第22巻2号編集委員会	130,000
学会誌印刷・通信関係	**24,350,000**	**17,342,893**	**−7,007,107**		
9 印刷費	22,250,000	15,367,860	−6,882,140	平成25年度論文集（1冊）	1,103,868
				平成25年度特集号（4冊）	2,723,004
				平成25年度作品集（1冊）	1,726,920
				論文集（4冊）	4,504,248
				特集号（1冊）	558,144
				作品集（1冊）	3,580,200
				概要集(1,000冊印刷)	864,000
				封筒代	307,476
10 出版物通信費	2,100,000	1,975,033	−124,967	郵送料・事務代行料金（前年度分を含む@350,000×8）	1,975,033
大会関係	**2,001,250**	**1,370,266**	**−630,984**		
11 大会補助費	750,000	688,621	−61,379	平成26年度秋季大会補助	188,621
				平成27年度春季大会補助	500,000
12 春季大会概要集編集	646,250	348,400	−297,850	アルバイト雇用費（平成26年度分）	78,400
				演題登録システム（PASREG）利用料	270,000
13 春季オーガナイズドセッション費用	320,000	195,611	−124,389		195,611
14 学会セミナー費用	100,000	0	−100,000		0
15 総会準備経費	20,000	16,200	−3,800	総会経費、委任状・資料印刷代	16,200
16 学会各賞選考委員会経費	105,000	57,324	−47,676	書類作成費（学会各賞推薦状・資料等）	57,324
17 国際デザイン会議	60,000	64,110	4,110	国際デザイン会議会費　（500＄）	64,110
				国際デザイン会議活動費（運営会議活動費）	0

項目	予算額	決算額	増減対予算額	決算額内訳	
委員会関係	**1,250,000**	**551,748**	**−698,252**		
18 委員会経費	200,000	−29,377	−229,377	共通費	−29,377
19 研究部会共通経費	400,000	267,293	−132,707	共通費（8研究部会）	267,293
20 支部活動補助費	600,000	313,832	−286,168	4支部	313,832
21 市販図書企画・編集経費	50,000	0	−50,000	編集費	0
広報関係	**550,000**	**140,826**	**−409,174**		
22 広報費	550,000	140,826	−409,174	大会ポスター，ちらし作成費，通信費（平成26年度春季大会）	131,728
				ホームページリニューアル	0
				その他	9,098
その他	**821,595**	**11,851,501**	**11,029,906**		
23 学協会関連	375,000	249,600	−125,400	学術会議活動費（@30,000＋@30,000）	0
				芸術関連シンポジウム分担金	0
				日本工学会活動費	0
				日本工学会会費	29,600
				CPD協議会会費	50,000
				JABEE年会費	100,000
				横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
				横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	0
26 予備費	446,595	86,400	−360,195		86,400
27 次年度繰越金	0	11,515,501	11,515,501		11,515,501
計	**39,534,845**	**39,646,699**	**111,854**		**39,646,699**

［特別会計］

	平成25年度 決算額	平成25年度 決算額	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	15,294,518	15,312,851	18,333	利息（￥18,333−）：基金に繰り入れ

平成２６年度収支決算につき，上記のとおりご報告いたします。

平成２７年５月２０日　日本デザイン学会

本部事務局長　小野 [redacted]　　本部事務局員　松原　久 [redacted]

監査　杉山 [redacted]　　監査　清水 [redacted]

平成２７年度活動計画

論文審査委員会

委員長　久保 光徳

デザイン学研究論文集が電子論文審査システム上にて実施されるようになり３年目を迎えます。旧システムでの論文投稿および審査はほぼ終了し，完全電子化に向けて移行中です。今年度は，これまでに印刷媒体と電子媒体の併用で発行されてきた論文集そのものも完全電子化とすることが計画されています。学会 HP のリニューアルに連動して，デザイン学研究がより読みやすく，そしてより投稿しやすくなるように論文投稿審査閲覧システムを整備する予定です。現行の J-stage での閲覧を核とした電子ジャーナル化を進め，掲載への期間短縮，被検索性の向上を目指したいと考えております。合わせて完全電子化にともなう著作権（公衆送信権）の諸問題への解決も進めていきたいと思います。さらに，昨年度からの懸案である和文誌と英文誌の２誌独立発行を目指し，国際的な評価基準の土俵にデザイン学研究論文集が上がれるように環境整備を図る予定です。本年度は，論文審査委員会に，委員長１名の他，委員２名，幹事４名をお願いし，計７名で論文審査委員会の運営を実施させていただくこととしました。さらには，昨年度に続き，投稿論文のご審査をお願いさせていただく学会員各位の増強も図りたいとも思っております。できるだけ多くの会員各位にご投稿いただくと同時に，できるだけ多くの会員各位にデザイン学研究へ投稿された論文のご審査もお願い致したいと思っております。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかとは思いますが，どうぞご理解とご協力をいただければと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

委員　小山 慎一，寺内 文雄

幹事　蘆澤 雄亮，植田 憲，加藤 健郎，鄭孟淙

作品審査委員会

委員長　小林 昭世

2015 年度作品集は、電子化するとともに、従来通り、冊子を刊行します。皆様からの作品論文の積極的な投稿を期待いたします。

2015 年度作品集 21 号は、作品集刊行日時を１ヶ月前倒しし、２月に刊行するために、従来の概要による審査を無くし、８月 30 日を作品論文提出期限とし、作品論文の審査を開始いたします。今後の広報ならびに日本デザイン学会 Web ページの「作品集投稿規定」「作品集執筆要領」、特に「作品集の投稿手順」をご確認くださいますよう、お願いいたします。

2014 年度作品審査委員会

小林昭世　高野修治　生田目美紀　橋田規子　白石学　加藤健郎　永盛祐介　橋本和幸　永嶋さゆり

学会誌編集・出版委員会

委員長　岡崎 章

前年度に引き続き当委員会長を担当する岡崎です.

H26 活動報告で述べましたとおり，H28 年度より論文集と作品集が電子版のみの発行となり，特集号は学会唯一の印刷物としてリニューアルする予定です.

今年度は，リニューアル版のあり方及び具体的な体裁について，市販図書企画・編集委員会と連携しつつ，検討を進めて行きます.

特集号（年４冊）につきましては，現状の体裁の最後となる第 23 巻１～４号（通巻 89 ～ 92 号）を発行する予定です。特集テーマのアイデアをお持ちの方は担当理事までご一報下さい。

編集委員は，工藤芳彰，寺内文雄，山田弘和，大島直樹（幹事），森山貴之（幹事）です.

研究推進委員会

委員長　渡邉 誠

研究推進委員会では、①研究部会の活性化、②第 62 回春季研究発表大会の学生交流ワークショップの実施運営、③同大会のテーマセッションの運営、④本年度秋季企画大会における企画運営、⑤来年度春季研究発表大会テーマセッション募集を行います。

①研究部会の活性化：2014 年度より，各研究部会に活動報告・計画の報告をお願いし，総会資料に掲載することとし，本年度は，17 部会のうち，？部会から報告があった。

②今回の春季研究発表大会の学生交流ワークショップの実施運営：本年度は，パロアルト研究所日本代表の佐々 牧雄氏オーガナイズによる「世界の見方が変わるワークショップ」を開催いたします。

③春季研究発表大会のテーマセッションの運営：各テーマセッションの企画者に座長の選任やグッドプレゼンテーション賞の推薦などセッションの当日運営を依頼する。

④本年度秋季企画大会における企画運営：東京藝術大学となり 11 月 21 日（土）に開催される秋季企画大会で，研究推進に繋がる企画を企画する。

⑤来年度春季研究発表大会テーマセッション募集：今年末に募集を始めます。奮ってご応募ください。

企画委員会　総合企画

委員長　松岡 由幸

今年度の企画委員会総合企画は，昨年度に引き続き，デザイン学における基盤研究の推進を図る所存です.

まず，本春季大会では，千葉大学の皆様のご尽力により，大会テーマ「デザインの幹」のもと，竹原あき子先生による基調講演「骨とトゲのあるデザインの話」，特別セッション「デザインの未来史：次世代への視覚化の問題集」，さらに 4 件のオーガナイズドセッションが行われます.

なお，本大会より，オーガナイズドセッションのテーマに関しては，理事会提案テーマをまじえることで，ここ数年やや固定してきたテーマに対する工夫も採り入れています.

さらに，11 月 21 日（土）には，東京芸術大学にて，秋季企画大会が行われる予定であり，現在，環境デザイン部会と連動しつつ，その準備を進めていただいている段階であります.

このほかにも，講習会やセミナーの実施を検討しており，これらの諸活動を通じて，デザイン学の発展と地位の向上を目指します.

企画委員会　支部企画

委員長　五十嵐 浩也

各支部における研究発表大会，講演，ワークショップ，展覧会等の活動は活発に行われています．これらの活動は学会の根幹をなす活動として重要であることは言うまでもありません. 現在，それぞれの活動においてそれぞれの出版物，ホームページ，賞等がその活動の活発化とともに多く，かつ様々な方向性を有するに到ってまいりました.

企画員会としましては，ここ数年各支部が発行している刊行物，デジタル媒体等の刊行物の取扱を検討して参りましたが，本年度もこの内容を継続検討する予定です．刊行物の体裁，運用指針，フォーマット，賞のあり方の検討を具体的に進める所存です．また，活動単位としての支部地区制の見直しを法人化に向けての検討の推移と協働しながら検討することも本年度の活動の軸と考えております.

教育・資格委員会

委員長　古屋 繁

今年度も，昨年度までの活動を継承し，「教育」と「資格」について，具体的な施策を計画・実行していきたと考えています。

具体的には，

1）継続教育（CPD）

昨年度，社会人にとって価値あるプログラムのコンテンツについて情報収集した結果を受け，講演会を企画しましたので，それをうけて本年度中に実施したいと考えています。

2）デザイン実務者の成果発表媒体

作品集審査委員会や日本デザイン振興会と連携した企画構想案を具体的なものにしていきます。

3）資格制度「資格制度」は，「継続教育」とも関連する事案ですが，継続して JIDA との連携を深めていきます。

また，技術者教育認定機構（JABEE）については，引き続き専門職大学院における認証評価などを通して，利用価値を高めるための取組について継続的に検討していきます。近々のうちに，デザイン分野での資格や認証を具体的に実施することはないものの，デザイン分野の認証評価が申請されたときに，その受け皿としてのデザイン学会が参画していることが重要であるとも考えられます。認証評価のノウハウの取得などについて，情報の共有ができるように，その動向を発信していきたいと思います。

広報委員会

委員長　岡本 誠

広報委員会の役目は、広報活動を通じて、学会と社会をつなぎ、更に学会員同士の交流を促進することです。本年度は、1）リニューアルした学会ホームページやメーリングリストの運営、2）学会の魅力を伝える広報資料の制作、3）協賛・広報活動を通じた関連学会との連携強化をおこなう計画です。前年度リニューアルした学会ホームページを有効に活用していくために、関連する学会ホームページとのリンクの充実や各コンテンツの改良・充実を行います。また、ホームページの運用上の課題に対しては、継続的に改良を行います。学会活動の広報に、皆様のご協力をお願いいたします。

学会の魅力を伝える広報資料の検討では、デザイン学会の活動をアピールする広報資料の内容について検討し、パンフレットを制作する計画です。

財務委員会

委員長　生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動する。

(1) 学会員増加のための適切な予算配分の実施。

(2) 学会の法人化に伴う新たな財務計画の立案。

(1) に関しては、学会全体としての会員数の増加につながる広報活動を行うなど、広報委員会に適切な予算を割り当て、積極的な活動をお願いする。

(2) に関しては、法人化対策特別委員会、本部事務局と連携しながら、法人化に伴う、収支のバランスのシミュレーションを行い、会員サービス向上につながる財務計画立案への基盤整備を行う。

市販図書企画・編集委員会

委員長　蓮見 孝

本委員会においては，今年度も引き続き、デザインの知を支える学会の図書企画・編集に、特に若手の幹事の支援を得ながら取り組んでいきたいと思います。

活動の一つとして，昨年度より理事会で話題になっている特集号の市販図書化が挙げられます. これについては，学会誌編集・出版委員会と連携しつつ，その可能性について検討を進めていきたいと考えています.

この実現により，学会の魅力度や認知度の向上を図るとともに，現在進めている法人化と相俟って，当学会の社会的地位の向上，さらには，研究活動の活性化や会員数の増加などに繋がることも期待しています.

法人化特別対策委員会

委員長　國澤 好衛

本年度は、平成 28 年度総会にて、法人化へスムーズに移行できるよう、多くのことを議論し決定する必要があります。代議員制の導入、それに伴う選挙制度の変更、会員区分の整理、会員の権利など、これらを早急に議論し、決定して参りたいと思います。

その後、その決定に従い、定款の作成、それに伴う各種規定の見直しを行い、法人化に向けて着実に準備を進めていきたいと思います。

法人化は学会にとって、非常に大きな組織変更であります。今後も多くの方々からのアドバイスを頂きながら、着実に進めて参りたいと思います。

Design シンポジウム担当

担当理事　松岡 由幸

Design シンポジウムは，デザイン・設計領域の知の統合を図るため，日本のデザイン・設計に関する学会の共催により，2 年に一度開催されています．現在は，当学会に加え，日本建築学会，日本機械学会，日本設計工学会，精密工学会，人工知能学会の 6 学会が共同で運用しています．

現在，日本機械学会が幹事学会として，次年度に行う Design シンポジウム 2016 に向けて，その準備を進めているところです．

当学会からは，小林昭世先生，永井由佳里先生，松岡の 3 名に加え，若手グループへは小野健太先生，佐藤浩一郎先生が参加しており，デザイン・設計に関わる他学会との連携を深める活動を進める予定です．

ＩＡＳＤＲ担当

担当理事　山中 敏正

本年度は，2015 年ブリスベーン大会を実施する年である。すでに論文投稿は締め切られ、審査が進行中である。2013 東京大会に比べて 2 ヶ月ほど遅い時期の開催のため、これから様々な決定事項が公開される。4 月 17 日に本年度の理事会をオンラインで開催し、2017 年度大会について公募した結果をもとにいくつかの候補に絞り、大会運営の可能性について最終段階の確認作業を行っている。なお、2005 年から大会開催地の決定ポリシーであった、東洋（日本、韓国、台湾）／西洋（DRS 等）の輪番システムは廃止し、東洋西洋にかかわらず世界各国から開催候補地を公募することにした。IASDR 会員について、昨年から提案されていた Design and Emotion の加盟については今回の議事にはならなかった。

懸案の IASDR による論文誌の発刊についても協議は進行中であるが、IASDR のホームページを通じて過去の大会の発表をまとめる作業を進めようという行動計画が承認された。

IASDR2015 の開催日は 2-5 November, 2015 である．

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事　松岡由幸

元来，デザイン学は，横断型科学の根幹をなす学術領域であり，当学会は，横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考えます．この視点に立脚し，横幹連合に参画し，現在では，松岡が理事として参加しています．

今年度のイベントとしましては，4 月 24 日に定期総会が，東京大学にて行われました．さらに，12 月 5 日から 6 日にかけて，名古屋工業大学にて，第 6 回横幹連合コンファレンスが行われます．大会テーマは，「知のサスティナブル・イノベーション（仮）」であり，当学会から多くの参加が望まれます．

日本学術会議

第一部／人文・社会科学 藝術学関連学会連合

担当理事　小林 昭世

日本学術会議第 1 部傘下の藝術学関連学会連合（日本デザイン学会を含む 15 学会により構成）はシンポジウムの開催を主要な事業としています。2015 年度は、すでにお知らせしている通り、6 月 13 日に京都国立近代美術館講堂にて、第 11 回公開シンポジウム「日常のポエティックス」を開催します。主催学会の都合により、日本デザイン学会の春季大会と開催日が残念ながら重なってしまいました。今回のシンポジウムは、藝術学関連学会傘下の多くの学会からのパネリストそれぞれの立場から、意見交換が行われる予定です。

「日々のありのままの営みをとらえ、場所に溶け込み、時間を旅し、人と出合い、そうしてこころと身体を覚醒させてゆく――近年の芸術表現に顕著なありようが、芸術の研究に省察や新たな認識を示唆しているように思われる。(中略)芸術の「主題」としての日常、芸術が生まれ培われる「坩堝」ともいえる日常、芸術の美や解釈において言説の深淵にそれとなく影をおとす「感性」や「経験」の機微・肌理など、15 の多彩な学会がそれらを照らし出し、諸芸術にたいする今後の研究について考えをめぐらしてはどうだろう。」（開催主旨の抜粋）

日本工学会

担当理事　國澤好衛

日本工学会の「事務研究委員会」の議論は、学協会が抱える喫緊の課題そのものとなっています。その内、公益法人制度改革に伴う法人化への対応および学協会が連携して行う横断的な継続教育については、当学会においても極めて重要なテーマとなっています。特に法人化については、昨年度新しく

設置された法人化対策特別委員会にてしっかり議論を行い、本年度の総会で方向性を示し、来年度の総会にて、一般社団法人への移行を予定しています。これまでも、日本工学会をベースに他学協会の動向などを探ってきましたが、今後もこの場を活用し法人化や継続教育への有用な視点を会員の皆様に提供していきたいと考えています。

第１支部

支部長　両角 清隆

２年に一度開催している第１支部大会 を、2015 年９月５日 (土)・6 日 (日) １泊２日で山形市の東北芸術工科大学のキャンパスを中心に開催する。テーマを「デザインのバトン『気づきを手渡す』デザイン教育プログラムの試行」として、開催する。内容としては、１日目に「小学生対象のデザイン授業の企画検討会」、２日目に「デザイン授業の実施・見学」を中心に実施する。第１支部に属する大学の学生が集まり、日頃の学びの中で習得してきた、デザインが社会に果たすべき役割やデザインを学ぶ上で大切なエッセンスなどのさまざまな気づきを、より若い年代のこどもたち（市内の小学生）に伝えることを目的として、授業の計画・実施をする。教員はその過程を見て、デザインについてメタ的な検討を行う機会とする。学生、教員ともデザインついて深く考える機会になることを期待している。

第２支部

支部長　五十嵐 浩也

第２支部は昨年度の活動の基本方針であった産学連携を継承して推進したいと考えております．JIDA,JDP とも連携して，教育・研究者，学生と現場のデザイナーとの意見交換の場を幾つか設定したいと考えております．

研究推進委員会とも相談し，出来る限り多くの研究部会との連携によるセミナー，研究発表会を企画する予定です．

関東圏の多くの学会員の方々がふるって参加いただけるような活動を目指しておりますのが，まず９月に上記方針に則ったイベントを企画したいと思います．

第３支部

支部長　國本 桂史

本年度は、下記の５事業を実施します。

１．サイエンスデザインカフェ事業

地域や他分野の人々との交流とデザイン啓蒙等を目的として、気軽にディスカッションができる“カフェ”形式の小規模講演会を２回開催予定です。

【第１回】
日時：7 月 13 日 (月)(時間調整中)
講師：伊藤 邦久 教授 (College for Creative Studies (CCS) トランスポーテーション学科教授)
場所：名古屋市立大学病院ホール

【第２回】
日時：12 月（日時未定）
講師予定：中西 良一 教授（名古屋市立大学大学院 医学研究科 腫瘍・免疫外科学分野）
場所：名古屋市立大学病院ホール

２．第３支部研究発表会・懇親会

第３支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図ることを目的としています。例年３月に年１回開催し、学会発表の練習機会ともなっています。口頭発表とポスター発表があります。

日程：平成 28 年３月予定
開催校：調整中

３．会員間の情報交流の充実

Web サイトの充実により、会員間の情報の受発信の活性化を目指します。また、積極的な他支部との情報や人的交流も図ります。

４．日本デザイン学会奨励賞第３支部

学部生、大学院生のデザイン活動と、研究活動の評価のための学生表彰制度を継続して行います。各所属機関での優秀な研究、制作活動を行った学部生、大学院生を対象とした奨励賞を設定し、各機関に所属するデザイン学会会員の選考、推薦に基づき決定します。

５．学生会による研究交流事業

各大学より大学院生と学部生とが参加して学生会を構成し、大学院生がリーダーとなり学生同士の研究交流を活発化することで、支部研究発表会への積極的な参加と、本学会への入会とを促進します。学生会を中心としたツアーイベント等の開催も検討します。

第４支部

支部長　益岡 了

第４支部では１）ユニバーサルデザイン研究会，２）インタラクションデザイン研究会，３）地域生活文化研究会，４）近畿・中国・四国地区研究会など関西地区における学術研究活動を実施して来ましたが，今年度もそれらの発展を図り，研究発表会や支部内の会員，デザイン学生の交流を目指して活動する予定です．

ユニバーサルデザイン研究会では，実践的な UD 活動を推進するための研究会を開催します．インタラクションデザイン研究会では，当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し，新たなライフスタイルとインタラクションデザインの関係について参加者との議論を行います．地域生活文化研究化ではフィールドワークを通して，生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねます．近畿・中国・四国地区研究会では，横断的なテーマを設定し，研究会をを企画開催します．これらのこれらの活動を通じて地域間・大学間連携による議論の創出を図ります．

またメーリングリストなどを活用し，地域ネットワークの拡大と円滑なコミュニケーションを重視した支部活動を推進します．関連学会支部との共催事業や学生参加も念頭に入れた新たな支部内の交流への取り組みを，支部メンバーの協力を得て検討します．

第５支部

支部長　井上 貢一

第５支部では、本年度も「学生デザイン展」と「研究発表会・懇親会」の２つの事業を計画しています。

1. 第７回九州沖縄地区　学生デザイン展

会場：九州芸文館　大交流室・エントランスギャラリー
　　福岡県筑後市大字津島 1131
日程：平成 27 年６月 17 日（水）～27 日（土）
作品プレゼンテーション 27 日 (土) 13 時 ~16 時 (予定)
共催：NPO 法人芸術の森デザイン会議、九州芸文館

昨年にひきつづき本年度も、福岡県にある芸術文化の交流拠点「九州芸文館」にご協力いただき、11 日間の展覧会を開催予定です。

平成 27 年度、４月末で 90 件を超えるエントリーをいただいており、活気ある展覧会となるよう準備中です。

2. 平成 27 年度 日本デザイン学会第５支部 研究発表会・懇親会

会場：九州大学 大橋キャンパス
　　福岡県福岡市南区塩原
日程：平成 27 年 10 月 17 日（土）

幹事の所属する大学をローテーションで会場として開催している本研究会、今年は福岡市南区にある九州大学大橋キャンパスが会場となります。

８月には、学会のメーリングリストを通してご案内を差し上げますので、是非 ご参加下さい。

※尚、この研究会では、第５支部以外の地域の会員の方の発表も受付けており

本部事務局

本部事務局長　小野 健太

本年度は、昨年に引き続き学生会員制度の定着により学生会員が更に増加する事が期待されますが、それにともなって問題となりつつある、学生会員の継続・移行手続きの円滑化を進めることが重要と考えます。特に、卒業によって資格が切れる学生会員が正会員に移行してもらえるように働きかけ、正会員数を増加させる取り組みたいと思います。

本年度は、学会誌の完全電子化、法人化への移行という、大変大きな変更が予定されております。スムーズな移行ができるよう、検討・準備に務めていきたいと思います。

各委員会活動、支部活動ができるだけ円滑に進むようサポートし、学会活動を支えていきたいと思います。特に近年活発化している各支部の活動に対して、本部事務局としてもできるだけ支援していきたいと考えています。

また、事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えたスムーズな対応を心がけていきたいと思いますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

教育部会

主査　金子 武志

年間テーマ「続・まなびのかたち、おしえのかたち」

2014 年度テーマ「まなびのかたち、おしえのかたち」を引き続き実施する予定。

デザインの分野に限らず、時代とともに学生の気質も変わり、社会のニーズに即応しながら教育現場の考え方や授業の内容、スタイルも色々変ってきた。また、大学から幼稚園までの機関に限らず、地域のコミュニティー、美術館でのアートプロジェクト、ネットを利用した通信講座など、学びの場や方法は多様化している現在の状況をあらためて確認しこれからの可能性について対話していく。

年度末にはメンバーや研究会参加者、関係者に執筆を依頼しミニエッセイ集「私の受けた教育」を編集する予定である。

研究会の予定：
第１回　７月３日（金）18:00~20:00 日本大学芸術学部
第２回　11 月頃（詳細企画中）
第３回　平成２８年３月頃（詳細企画中）

家具・木工部会

主査　阿部 眞理

平成 27 年度においては，研究部会総会を開催し，新主査ならびに幹事を選出する。また，平成 27 年度の活動内容について審議する。６月開催の第 62 回春季研究発表大会においては，研究部会主催のテーマセッション「伝統的資源と現在学」を実施する。また，研究部会誌である「家具・木工通信」は第 60 号を年度末に発行する。家具・木工関連情報については例年通り随時配信する。

プロダクトデザイン研究部会

主査　山崎和彦

本年度の活動計画については現在検討中ですが、昨年度に引き続いて、１）プロダクトデザイン研究部会の開催、２）関連団体 (日本インダストリアルデザイナー協会、人間中心設計機構等) とのイベントの開催、３）プロダクトデザイン研究に関連する情報発信 (日本デザイン学会 Web サイトとプロダクトデザイン研究部会 Facebook 等) などの活動を計画していく予定です。また、今後の検討として部会員の拡大や研究領域（例えば、複合領域や先進技術等）の検討なども、検討していきたいと考えています。

環境デザイン部会

主査　山田弘和

本年度の環境デザイン部会は「震災後の環境デザイン～未来につなぐデザイン・レガシー」を年間テーマとして考えています。部会では南三陸町防災庁舎の保存を呼びかけ、「残すべきものとは」をテーマに災害復興の変化を取材し記録してきました。一方、

2020年に開催されるTOKYOオリンピック・パラリンピックがこれからの環境づくりとすれば、1964年の時に目指したような、「しあわせな暮らし」の「ひな形」になるかという二つの観点、すなわち「のこすもの－おきかえるもの」を未来につなぐ役割と考え、継続テーマとするものです。

平成２７年度秋季企画大会ではこのテーマを広く学会の皆様とセッションする場として本部理事会から打診をいただきました。そこで秋季大会テーマセッションでは「デザイン・レガシー」を仮にキーワードとしていますが、今後も各研究部会からの参加協力を仰ぎながら準備をすすめていきたいと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。

出版計画については、本学会特集号に「震災後の環境デザイン～残すべきものとは」として、年度内刊行を予定しています。

部会会報ED Placeは、年間３回発行予定です。年度はじめに発行されるものは、特集「卒業制作」になります。その他の特集は「ブロック」（選定中）、「秋季大会」として発行を予定しています。また、本学会では学会誌の電子化への移行が計画されていることから、部会においても費用のかかる印刷媒体郵送方式を見直し、本年度はED Placeの電子化を行い、会員に向けて電子メールによる発送に切り替えていく予定です。

見学・シンポジウム・講演会については、平成26年度に行いました「定点観測ツアー for2020」の継続案がありますが、各地域のつながりを活性化する企画などを考え、担当幹事からの新たな提案も取り入れて、参加意義の有る見学会・講演会などの実施に向けて企画していきます。

部会運営からは、会報の電子化を反映させた部会費の見直しなどを行います。積極的に環境デザインを考えるという部会の趣旨の元、上記の他にも追加企画なども検討していく所存です。全国の部会員のつながりを広げ、学会内外とも協力を得て、本年度も活発な運営を進めていきたいと考えています。

デザイン理論・方法論部会

主査　松岡 由幸

デザイン理論・方法論部会は，これまで多くのデザイナや研究者が集い，デザイン科学の基盤構築に努めており，『デザイン科学事典』の編纂に向け，その準備をする活動を進めてきました．平成27年度においては，その事典編纂を本格的に進める年度と位置づけています．

また，7月17日（金）には，慶應義塾大学矢上キャンパスデザインセンターにおいて，デザイン塾「タイムアクシスデザインの時代」を主催し，タイムアクシスデザインのエコデザインやサービスデザインへの応用についても，議論を行う予定です．

情報デザイン部会

主査　永井 由美子

（1）研究部会の開催形式の模索

部会開催方法を模索しながら、いくつかのパターンの研究部会の開催を計画。

(a) ライトニングトーク開催：UST配信なども含め、学会員以外の参加を前提とした、20名程度のオープンでライトな部会開催。

(b) 研究会開催：テーマ設定をした部会開催（従来の研究部会）

（2）今年度部会テーマ

・情報デザインの本質
・地方や地域における情報デザイン
・日常生活における情報デザイン
・プロトタイピングと情報デザイン
・人工知能と情報デザイン

創造性研究部会

主査　永井由佳里

デザインによる多様な価値の創出が期待されている。前年度には生活の質の向上を目標に、デザインに何ができるかという問題と、その方法を具体的に追求した。本年度も研究部会メンバーを中心に学会内外の研究者、実践者、学生と学際的な議論を重ねていく。第62回春季研究発表大会では、創造性研究部会の企画によるテーマセッション「イノベーションと創造性：デザインの可能性」で16件の研究発表を予定している。大規模で複雑な世界の課題の解決にむけ、イノベーションを創出することが期待されていることを反映し、地域や企業がそれぞれ取り組んでいるデザインの具体的な研究事例や、新しいプロダクトやサービスを実現するデザイン思考や方法論について議論し、多様な個々のアプローチによって達成された研究成果を発表する。また、認知科学会、創造学会等、デザインと密接な関係がある学術領域との連携によって、本研究部会は創造性に優れた人材の育成や、グループワークによる創造性の強化方法等、教育や実践面での社会展開と普及を行う。国際的には、2015年7月に、ミラノで開催される、本研究部会と関係の深いthe Design Society主催の国際会議International Conference on Engineering Designでのワークショップと研究発表、さらには11月にブリスベンで開催されるIASDR2015、2016年に開催されるInternational Conference on Design Creativityでの研究発表など、日ごろの研究成果を発表する機会により2010年以来継続しているデザインの創造性についての議論をさらに深めていく。

タイポグラフィ研究部会

主査　石川 重遠

平成27年度タイポグラフィ研究部会では、日本デザイン学会春季研究発表大会において毎回部会会議を開催し、今年度の活動計画を決める。特に特集号の発刊、２回程度のタイポグラフィに関する講演会の計画が考えられる。

サービスイノベーションデザイン研究部会

主査　古屋 繁

本年度は，「製造業のサービス化」「IoT」などをキーワードに日本のもの作りに対する変革の気運が高まっています。そこで，その内容を改めて整理しながら，サービスデザインの新たな視座を得るために，勉強会を企画しています。また，それらをふまえて，それらを 12 月を特集号としてまとめたいと考えています。

子どものためのデザイン部会

主査　岡崎 章

H27 年春季研究発表大会にてオーガナイズドセッション「子どものためのデザインに必要な視点とは何か」とテーマセッション「子どものためのデザイン」及び部会を開催します.

運営委員幹事は，工藤芳彰，若林尚樹です.

平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日 - 平成 28 年 3 月 31 日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
平成26年度繰越金	11,515,501		11,515,501
1　会費（現）	16,530,800	正会員@13,000×1,467名×0.8(徴収率)	15,256,800
		学生会員@6,500×245名×0.8(徴収率)	1,274,000
2　会費（新）	2,000,000	正会員@18,000×50名（一般　入会金：5,000，年会費：13,000）	1,350,000
		学生会員@6,500×100名(入会金：免除，年会費：6,500)	650,000
3　賛助会員費（現）	970,000	31件	970,000
4　賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件	30,000
5　年間購読会員費（現）	1,475,000	@25,000×59件	1,475,000
6　年間購読会員費（新）	25,000	@25,000×1件	25,000
7　広告費	100,000	@50,000×2件	100,000
8　学会誌掲載別刷料･負担金	4,190,000	論文集別刷料・掲載基本料･ｶﾗｰ印刷負担金（(別刷料@25,000×6+@30000×6)×6)	1,980,000
		作品集掲載費・ｶﾗｰ印刷負担金（@70,000x10+@100,000x10)	1,700,000
		平成26年度作品集掲載費・ｶﾗｰ印刷負担金	510,000
9　概要集売上金	2,100,000	@3,500×600冊	2,100,000
10　雑収入	830,000	学会誌売上	30,000
		NII-ELS還元金、補助金、預金利息等	800,000
		その他	0
計	**39,766,301**		**39,766,301**

■支出の部

項目	予算額	予算額内訳	
本部事務局＆理事会関係　10,422,000			
1　本部事務局経費	9,222,000	消耗品代	300,000
		運営経費（春季大会出張費用含む）	100,000
		パート雇用費（@180,000×12,@180,000×2)	2,520,000
		通勤費（@6,000x12)	72,000
		施設設備費（プリンター買換）	1,400,000
		通信費及び電話代金	1,000,000
		印刷代	250,000
		雑費	150,000
		会費引き落とし経費	150,000
		賃貸料（@150,000×12ヶ月）	1,800,000
		光熱費	140,000
		アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿作成補助等)	1,150,000
		税金準備金	70,000
		労災保険料	120,000
2　理事会運営費	300,000	会場借用料、理事会運営経費等	300,000
3　役員活動費	600,000	役員の諸活動に対する補助	600,000
4　選挙経費	300,000	選挙に関する費用	300,000
学会誌審査・編集関係　1,540,000			
5　論文審査委員会経費	480,000		480,000
6　作品審査委員会経費	250,000		250,000
7　学会誌編集・出版委員会経費	30,000		30,000
8　特集号編集委員会経費	780,000	第22巻3号編集委員会	130,000
		第22巻4号編集委員会	130,000
		第23巻1号編集委員会	130,000
		第23巻2号編集委員会	130,000
		第23巻3号編集委員会	130,000
		第23巻4号編集委員会	130,000
学会誌印刷・通信関係　21,990,000			
9　印刷費	19,690,000	平成26年度論文集（2冊）	1,250,000
		平成26年度特集号（3冊）	2,700,000
		平成26年度作品集（0冊）	0
		論文集（@1,250,000×6冊）	7,500,000
		特集号（@900,000×4冊）	3,600,000
		作品集（@3,500,000×1冊）	3,500,000
		概要集ＣＤ（800セット）	640,000
		封筒代	500,000
10　出版物通信費	2,300,000	郵送料・事務代行料金	2,300,000

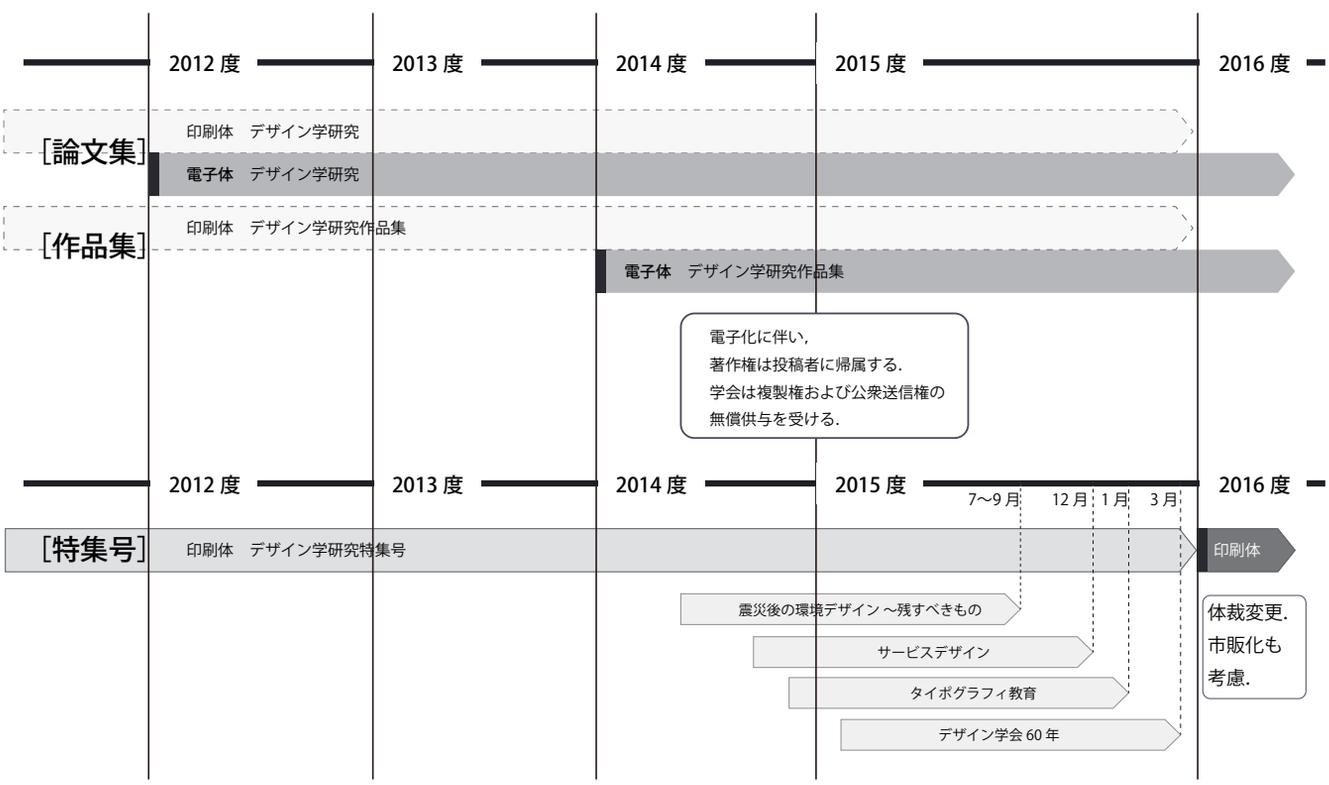
項目	予算額	予算額内訳	
大会関係 2,232,000			
11 大会補助費	750,000	平成27年度秋季大会補助	250,000
		平成28年度春季大会補助	500,000
12 春季大会概要集編集委員会経費	582,000	平成27年度分	150,000
		演題登録システム（PASREG）利用料，データ変換料	432,000
13 春季オーガナイズドセッション費用	320,000	@80,000×4件	320,000
14 学会セミナー費用	100,000		100,000
15 総会準備経費	20,000	総会経費、委任状・資料印刷代	20,000
16 学会各賞選考委員会経費	100,000	活動費	100,000
17 国際デザイン会議	360,000	国際デザイン会議会費　（500$）	60,000
		国際デザイン会議活動費	300,000
委員会関係 1,500,000			
18 委員会経費	200,000	共通費	200,000
19 研究部会共通経費	400,000	共通費（現行16研究部会）	400,000
20 支部活動補助費	850,000	@150,000×4支部分＋@250,000×第一支部分	850,000
21 市販図書企画・編集経費	50,000	編集費	50,000
広報関係 1,069,600			
22 広報費	1,069,600	大会ポスター・通信費，パンフレット作成費	350,000
		ホームページ新規作成	669,600
		ホームページ管理・運営	0
		その他	50,000
その他 1,012,701			
23 学協会関連	390,000	学術会議活動費（@30,000＋@30,000）	60,000
		芸術関連シンポジウム活動費(平成26,27年度分)	30,000
		日本工学会活動費	10,000
		日本工学会会費	40,000
		CPD協議会会費	50,000
		JABEE年会費	100,000
		横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
		横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
24 予備費	622,701		622,701
25 次年度繰越金	0		0
計	**39,766,301**		**39,766,301**

学会誌の電子化について

次年度（2016 年度）より以下の２点の導入を検討しています。
・論文集と作品集は電子版へ完全移行
・特集号は学会唯一の印刷物としてリニューアル

学会誌編集・出版委員長　岡崎 章

学会誌編集・出版委員会では、ここ数年、総会・会報にてお知らせしてきましたとおり理事会で議論を重ねながら「デザイン学会らしい電子化の可能性」を検討してきました。すでに国立情報学研究所のデータベース CiNii に学会誌創刊号からの電子媒体が置かれ、多くの研究教育機関や CiNii ユーザーはパソコンから論文を閲覧することができます。59 巻以降は J-Stage において論文誌を電子化し、会報 199 号で学会員の皆様にお知らせしたユーザー ID、パスワードで閲覧して頂くことが可能です。また，著作権の取り扱いを含む懸案事項でありました「作品集の電子化」に関する一連の作業についても完了することができました。作品集の電子体の利用開始につきましては、閲覧用パスワードを含め、学会ホームページでお知らせします。特集号のリニューアル版の内容につきましては、現在、学会の活動を一般に広く周知するものにするべく、理事会にて議論を進めております。なお学会誌の電子化については以下の通り検討しております。



学会法人化について

次年度（2016 年度総会後）より
・現在の評議員を代議員（社員）とする
・一般社団法人　非営利型
への組織変更を検討しています。

法人化対策特別委員長　國澤 好衛

学会ではすでに１０年以上にわたり学会の法人化について検討してまいりましたが、今年度この問題について一定の結論を見出すべく検討を行ってまいりたいと思います。

法人化を行う一番の目的として、社会的信用をより高めることがあげられます。ただ本学会は任意団体としてすでに６０年を超える歴史を持ち、社会的信用は十分得られているというのも確かです。しかしながら、現在の任意団体では、制度上、法律上の規制により、銀行口座の開設、保険への加入、公的資金や寄付金の受入など、一部の活動が制限されているのも事実です。またリスクマネージメントの視点からも、任意団体では、事件、事故が生じた場合に、組織として社会的責任を果たすことはできません。

まだまだ考慮・検討すべきことはたくさんあると思います。ぜひ会員の皆様からのご意見、アドバイスを頂き、ご一緒に学会のあるべき姿を考えてまいりたいと思います。

法人格の比較

比較項目	任意団体（現状）	NPO 法人		一般社団法人		公益社団法人
		特定非営利活動法人（NPO 法人）	認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）	非営利型	一般（普通）	
根拠法	なし	特定非営利活動促進法（NPO 法）		一般社団法人及び一般財団法人に関する法律		
性格	営利/非営利	非営利				
目的事業	任意	特定非営利活動促進法に定められた「20 分野の非営利活動」で、活動の内容が公益の増進に寄与するもの		活動の制約が法律上は一切ない 特定の者のみが利益を享受できる活動（町内会活動や同窓会活動など）も可		学術、技芸、慈善その他の公益に関する事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する 23 の公益目的事業
設立方法	任意	内閣府または都道府県（所轄庁）の認証後に登記し設立	要件を満たした NPO 法人を所轄庁が認定	公証人役場での定款認証後に登記して設立（準則主義） 非営利性の徹底		一般社団法人を設立後、内閣府または都道府県に公益認定申請を行い、公益認定を受けて公益社団法人に移行
最高議決機関	任意（総会）	社員総会				
議決権	任意（1 正会員 1 票）	1 社員 1 票				
役員	任意	理事 3 人以上 監事 1 人以上		理事 3 人以上 監事不設置可	理事 1 人以上 監事不設置可	理事 3 人以上 監事 1 人以上
代表権	任意（理事）	理事				代表理事
余剰金の扱い	任意（分配しない）	余剰金は分配できない				
税制	収益事業課税	収益事業課税	収益事業課税	収益事業課税	全所得課税	収益事業課税 公益目的事業は収益事業でも非課税
みなし寄付金損金算入	なし	なし	所得金額の 50%以下 年 200 万円以下	なし		所得金額の 50%以下 公益目的事業の実施に必要な金額
寄付者の優遇	なし	なし	あり	なし		あり
社会的信用	学術団体としての評価	NPO 法人としての社会的評価		認可された法人としての社会的評価		公益社団法人としての社会的評価
その他		情報開示の義務（所轄庁への報告） 活動内容の制約 社員資格の取得と喪失を制限できない		公告（貸借対照表）		公益認定の取消しを受けた場合に公益目的取得財産残額に相当する額の財産を他の公益法人等に贈与しなければならない

名誉会員賞贈呈

９６号　　勝浦 哲夫 氏

９７号　　杉山 和雄 氏

９８号　　水野 雅生 氏

９９号　　三橋 俊雄 氏